小槙舍雜錄

乙

15
1909
2

明治十一年三月　落合直澄

落合氏圖書記

○ぞう　止テ

古今離別　やよもこをまちらうのおくれねハこゝろさしぞうる之

〃物名　ぞう　承テ

うちつけにこしとや花の色をみむおく志ら露のそむるぞうを

モニの係をぬきて結べる格

古今春　さくら花とくちりぬともおもほえず人の心ぞ風も吹あへぬ

○ずて

この辞ハ未然段と続用段とに用くのぬし

万葉二　玉くしげみむろの山のさなかづらさねずハつひに

有勝麻之目（アリガテマシモ）　こハ未然段の辞まて受たり

〃　われハもややすみこ得たり皆人の得がてにすとふ安みこ得たり（難尓）

15
1909
2

<2016-188>

り

梓弓ひこばかりしよりめぐる後のこゝろを知勝奴鴨（シリガテヌカモ）

がてハ難げの約ことゝいへるげハ流く辞にあらざれハ
いうであれん

続用段
大ネ行常格

ナ　ニ　ヌ　㊂ヌ　ネ
㊂ニ　ヌ　ヌル　ヌレ

続用段ナ行ハ死去と同格の活にて常ハ続体段を
ヌルと活く格にて東ヌとふことハサみなるを知勝奴鴨（シリガテヌカモ）
ハヌと活けりめづらしき活なり　此奴を未然段
のヌと心得る時ハ意たがへり

万五 七十才 時のさかりを葦々尾迦祢（トドカネ） さぐりやりつれ云云
これらの加祢ハ難義にて加旦に同し

万二 三十丁 入不勝鴨（イリガテヌカモ）
万二 三十五丁オ 佐母良比不得者（サモラヒエネバ）　本居 不得者ヲカネラとよめり

鳳凰出於東方君子之國

竹書紀年　梁沈約附註 明呉琯校　黄帝軒轅氏の条に

五十年秋七月庚申鳳鳥至帝祭于洛水

庚申天霧三日三夜晝昏。帝問天老力牧容成曰於公何如
天老曰臣聞之國安其主好文則鳳凰居之國亂其主好武
則鳳凰去之今鳳凰翔於東郊而楽之其鳴音中夷則
與天相副以是觀之天有嚴教以賜帝帝勿犯也云云

○爾雅註疏に説文云神鳥也天老曰鳳像麟前鹿後蛇頸魚尾
龍文龜背燕頷雞喙五色備挙出於東方君子之國云云

説文に（直讀云）東夷从大大人也夷俗仁仁者壽有君子不死國などあるを
以て我國を彼より君子之國といへることを知るべし

案ずるに鳳字ハ風鳥の二字を合せて作りたるものなるべし風鳥のこと
西洋雜記に委く出たり見合すへし

東
小補韻會 説文東ハ動也
从日在木中 漢志東方陽
氣動物於時為春 鄭氏曰木若
本也日所升降在上曰杲在
中曰東在下曰杳 廣韻
春方也

夷
周書 説文平也从大从弓東
方之人也徐曰會意南蠻
从虫北狄从犬西羌从羊唯

東夷从大从弓 俗仁而壽有君子不死之國
凡係面曰東方人好生萬物觝觸地而出夷者觝也其類有九
後漢書東夷傳曰東夷九類云 菟樂浪高驪蒲飾鳧臾索家東屠倭人天鄙也
後漢書東夷傳倭云々 列傳ニ人性嗜酒多壽考至百餘者甚衆

風鳥

西洋雜記ニ云風鳥ハ南懐仁が坤輿外記ニ無對鳥ニ作る
和蘭語ニてハパラテイスロホーゴルと云云 ボイス〔人名〕の所撰の学藝全書
曰パラデイスホーゴル（和蘭語ホーゴルハ鳥なりパラデイスハ太虚なり此鳥太虚の中を飛翔して地ニ下ることなきによりて名くと）
とふ者ハ一種の奇鳥ニして其羽毛華彩粲爛たるものなり
いのんとあれハその胸よりして其長き羽を生じて尾よりも長くして
且廣さある故なり此鳥大抵其尾骶(テイ)の所よりして二條の長き
糸の如くなるもを生して其色黒(クロ)く羽とハ異ニして且全身の
羽よりも甚長し 眼ハ其頭の諸部ニ比すれ其小く 喙(リチハシ)ハ細く

魏志倭人傳 其人壽考或百年或八九十年

痩てあることも鶺鴒の喙ニ似より窮理の諸学家及と諸の
此鳥を産ける地方に旅行せし人の説ニこゝ此鳥ニ數種
ありと云へり ライと云人の説ニハこれ鷙鳥の一種ニして
其小なる者なりといへり 世ニ所傳の誤説數條あり或ハ云く
此鳥ハたゞ氣を服けるのみニして別ニ飲食けることなし
又足なく空中ニ飛翔してあへて地ニ下ることなし 故ニ年
老い又ハ病ニよりておのつから死して地ニ落るものを拾ひ得
るのしなりと （直澄云先つ比若梗の人ニあひて風鳥の説しける時その人の云く若狭島の海岸の岩穴ニ巣くひて常ニ風を吸ひて生ける鳥ニて足ハなしといへりいかであらんたとひ虛説ニもせよ古代よりさる説ありて支那ニても風鳥の字を合せて鳳字を作りしもの）

又あるひハ日此鳥ニハ曲りて甚尖利なる爪あり故ニ鳩等の諸小鳥を追て是を摑へつかみ裂きて是を食ふ其状猶他の鷙鳥ニ異ならん然れども是らハ皆虚談なり信じべからん○凡この鳥ハ高樹の上よりして飛翔なるあり其軽捷なることあたかも燕ニ同じ故ニ印度の人ハ此鳥を名てテルナアテの燕と云これそのテルナアテの地ニ多く此鳥を産じる故なり○キュリュスシウスと云人の説ニハ此鳥を定めて大小の二種とし其大なる者ハアルウの諸島ニ出るものニして彩色最美麗ニ尾翮も長きもあり又小なるものハ巴布亜礼、新為匿亜等の諸地ニ産じるものニして大なるものニ比すれバ美麗ならじ且尾翮の長もなく羽毛の色白くして且黄を帯ぶと云ふ○凡この大小二種の鳥ともに其中ニ鳥王ありその形他の鳥よりハ小ニして其飛ぶこと最高きを以て是を辨別じ其羽毛最光彩ありその尾の小なる所よりして又二の長き羽を生じ他の鳥ハこぞこの鳥王ニ従ひてとぶ集る時といへども亦是を以て識別すべし その上又馬尾ニ似たるもあり末の所より一束となりあつまりて旋迴し最末ニいたりて毛彩ある羽のごとくなるあり

直澄案ニ鳳凰の中ニ小鳳鳥の（埤雅ニ神鳥ま鳳鳥王とあり）（典籍便覧ニハ仁鳥 事物異名ニハ聖鳥の字合せるとあり）金せられたる鳳凰ハ風ニ皇を合せる 風鳥ハ鳥王事よく叶へり 知せらるるなり

○此鳥欧羅巴地方の好事家甚これを貴重じ

馬路古地方（モリュッカ）にてハ此鳥をマニュコヂアタとよびアルドロハンヂュス欲人の
説に是神鳥といふ義なりと述れたり其神鳥と名けしなる
ゆゑんハいまだ詳ならず　直澄云鳳凰爾雅注疏神鳥也とあるに合へりこれ
此鳥を万国にて愛賞せしなり支那西洋ともに神
鳥と名けたるものにて万国比類なき
名鳥なるべし　直澄明治九年の頃京に一ありし時大坂の人長澤花中より風鳥
を公宮へ見せまゐらむとておこせしより
けるを美しき鳥にてありしかど其頃ハ風鳥即鳳凰なりとも思ハねハさのミ心つけ
ても見ざりしが今思へバあたらしきことどもなり支那にて鳳凰を形容して龍文
亀背々々といへるも潤飾に過たる説なりとおもひさまで虚にハあらじと
おもてに其美あることを覚えたり　本草綱目啓蒙に鳳凰を古歌にコフトリ
とあるよしいへり何れの書にありや未だ目古歌見あたらされどもコフトリハ此國（コノクニ）の
鳥の義にや思ひ猶考ふべし

淵鑑類函百四十八
格物總論曰鳳神鳥也雄曰鳳雌曰凰五色備挙出於東方
君子之國見則天下安寧飛則羣鳥随之故曰羽虫三
百六十一而鳳凰為之長
論語摘衰聖曰鳳有六像九苞云云知我唯黄持竹
實来故子欲居九夷従鳳嬉
注曰黄黄中通理也鳳鳥遭乱則潜居九夷
漢書曰昭帝之始三年鳳凰集東海遣使祠其處

康煕字典ハ
鳳古文鵬
字書にハ大方鳳ハ鳥部凰ハ几部に收めたれども類聚名義抄にハ
風部に收めたり古代の正しき字書によれるものなるべし

夷

通志六書略二三丁　東夷从大大人也夷俗仁仁者壽有君子不死之國
孔子曰道不行之九夷乗桴浮於海有以也古作𡰥
同書説文曰平也从大从弓東方之人也

磤馭盧嶌

御巫氏云淡路國山口俊樹の著せる自凝嶌三所辨ヲ讀ニ
押紙ヲ加フルトテノ其嶌ノ故實ヲ記載セシモノヲ通覧シ一考
證ヲ得タリ紀記ニハ滴瀝セル潮凝テ一島ト成ル故ニ磤
馭盧嶋ト曰フ二神是嶌ニ降居テ島ヲ国中ノ柱トストエヘ
又ハ天柱ヲ竪テ八尋殿ヲ作ルトイヘリ天書ニハ二神降居
彼嶋ニ則以天瓊矛指立磤馭盧嶌之上為國中ノ天
柱國柱トアリ旧事紀偽造ノ自此天書ヲ取テ文ヲナセリ紀記
ニハ畧傳シテ柱ノ義通セスナリシナリサテ釈紀ニ古説ニ云ソ以其
矛衝立此嶌為国柱也即其矛化為小山也ト注セシハ天書
ト同シ詳説ニシテ古蹟ヲ徴スルニ足レリ然カイフ所以ハオノコロ
嶋ハ諾冊ノ二神其嶌ニ殿舎ヲ作リ住シ給フトアレハ絵嶋沼
島ノ如キ小嶋ニハアラシ幡村ノオノコロ嶋ト号スル小山則釈紀ニ所
謂瓊矛ノ化セル小山ニテ国中ノ天柱國柱是ナリ其矛ハオノ
コロ嶋ノ上ニ指立トアレハ小山所在ノ三原一郡ハ地大古ノ磤馭
盧嶋タルコ自ラ明カナリ其嶋ノ北ニ連属セシ地ヲマツ修理固
成シ給ヒテ淡路嶋ト名ツケ賜ヒ仁徳天皇ノ御世マテハオノコロ
嶋アハチ嶋二島ニ分レタリキ同朝ニ矢口足尼ヲ淡路ノ国造ト

政務ヲ執ラシメラレシ時オノコロ島ヲモ管領シテ淡路国ニ属セ
シメ孝徳天皇諸国ニ郡ヲ立ラレシトキ大古ノ淡路嶋ノ地ヲ
津名郡ト号シオノコロ嶋ノ地ヲ三原郡ト号ヤシメ国守ヲ始テ
置レシ日国府ヲ三原郡ニ建ラレシ故終ニオノコロ島ノ称ハ
縮ミテ天柱ノ小山ニノミ存セシナルベシ

釈紀ニ淡路島ノ西南角ニ在ル小島トイヘルハ大古ノ淡路島
今ノ津名郡ヨリ幡多ノ小山ヲサセル方位ナリ又一説ニ淡路
国東由良驛下トアルハ東方ヲ上トシ西方ヲ下トセルニテコレモ
方位合セリ又一説ニ淡路紀伊両国之境由理驛之西方ノ
小島ト云云彼淡路坤ノ方ノ小嶋ヲ于今得ニ此号ヲ世トアル由理由良
同一ニテ則上ノ説ニ同シク幡多ノ小山ヲサセルナリ

神代巻口訣在淡路西北隅小嶋トアルハ淡路国府ノ国分村
ヨリサセル方位ニテコレモ差ハス国府郡家ヨリ方位ヲサスヿ
国志ノ例ナリ

如此考證シテ見ルトキハ幡多ノ郷ノオノコロ嶋小山ハ国中ノ天
柱国柱ニテ三原郡ハ磤馭盧嶋ナルヿヨク古典ト符
合スルニ非ヤ常磐草ノ沼島磤馭盧嶋日記ノ絵嶋
等ノ附会ハ自ラ摧破セラルヘキニヤ

倭名鈔云淡路国国府在三原郡

按スルニ其旧跡今国分村ト云フ其村ヨリ下幡多村ノ自凝小山ハ西北ニ當ルヘシ　口決箕[illegible]疏在淡路西北隅小嶋トアルハ是方位ナリ

昔ノ国府ハ今ノ市村ナリト云フ方當レリ

同抄云淡路国津名郡郡家 以字 希

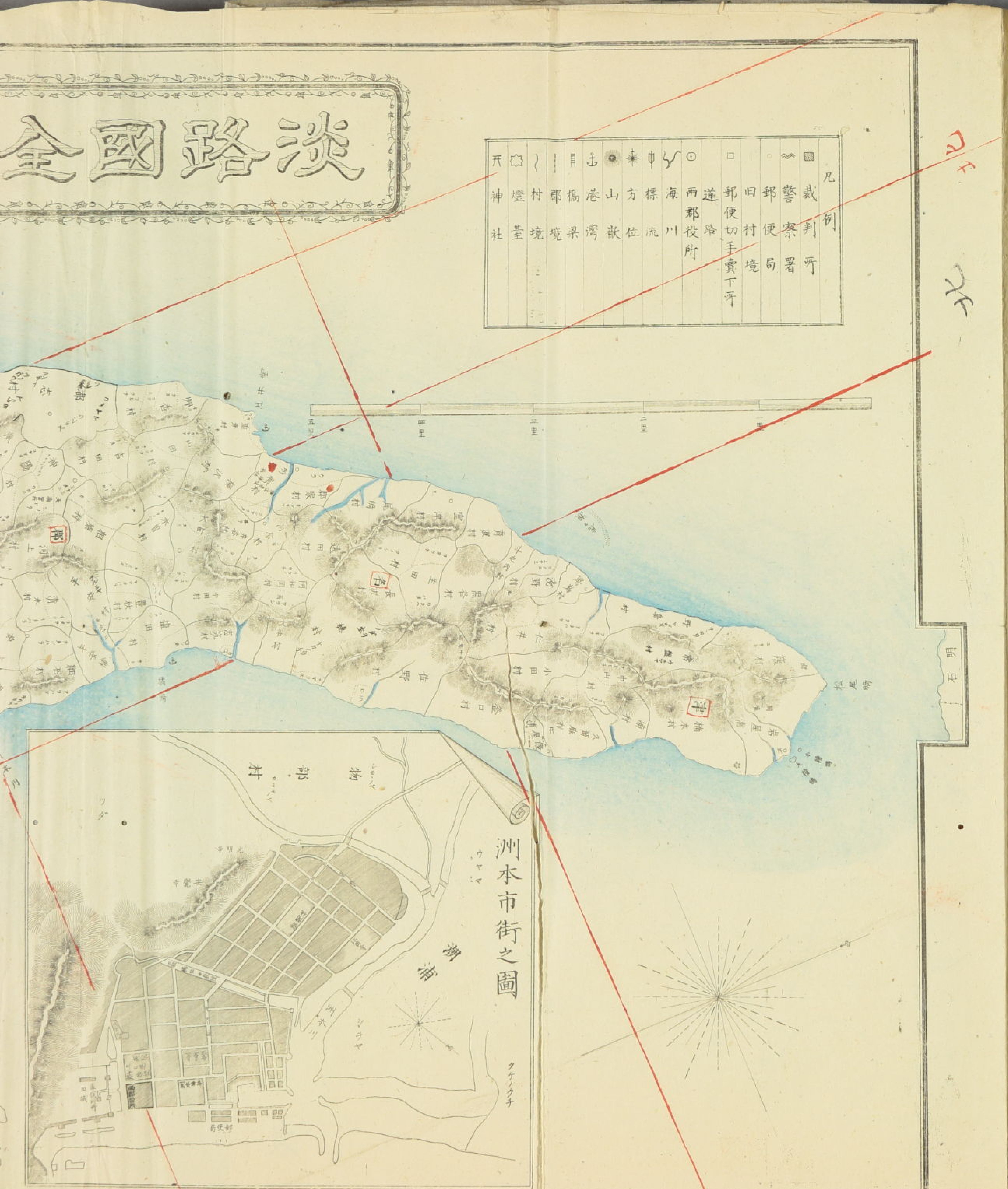
按ルニ其旧跡今郡家村アリ又郡家濱トモ云フモアリ其村ヨリ自凝小山ハ西南ニ當ルベシ　釈紀箕[illegible]疏ニ淡路西南角ニアル小嶋トアルハ是ナリ

釈紀ノ一説云淡路紀伊國両国之境由理驛之西方小嶋云云然而彼淡路坤方小嶋于今得此号也

按スルニ同紀一説ニ淡路国東由良驛トアル由良由理同処ニ云フ今モ三原郡ニ由良湊アリ其処ヨリ幡多小山ハ正西ニ當ルベシ又淡路坤方ト云ハ津名郡家ヨリノ方位ナリ

古事記云大鷦鷯天皇[illegible]其黒日賣欺大后曰欲見淡道嶋而幸行之時坐淡 四字黒日賣傍注

路道嶋遥望歌曰於志弖流夜那爾波能佐岐用伊傳多知弖和賀久迩 オシテルヤナニハノサキヨイデタチテワガクニ



倭名鈔云淡路国国府在三原郡

桉スルニ其旧跡今国分村ト云フ其村ヨリ下幡多村ノ自凝小山ハ西北ニ當ルヘシ　口決纂疏在淡路西北隅小嶋トアルハ是方位ナリ

昔ノ国府ハ今ノ市村ナリトモ云フ方當レリ

同抄云淡路国津名郡郡家 久字

桉ルニ其旧跡今郡家村アリ又郡家濱トモ云フモアリ其村ヨリ自凝小山ハ西南ニ當ルベシ　釈紀纂疏ニ淡路西南角ニアル小嶋トアルハ是ナリ

釈紀ノ一説云淡路紀伊國両国之境由理驛之西方小嶋云云然而彼淡路坤方小嶋于今得此号也

桉スルニ同紀一説ニ淡路国東由良驛トアル由良由理同処ト云フ今モ三原郡ニ由良湊アリ其処ヨリ幡多小山ハ正西ニ當ルベシ又淡路坤方トイフハ津名郡家ヨリノ方位ナリ

古事記云大鷦鷯天皇戀ニ其黒日賣欺ニ大后曰欲見淡道嶋而幸行之時坐淡路道嶋遥望歌曰於志弖流夜那爾波能佐岐用伊傳多知弖和賀久迩（オシテルヤナニハノサキヨイデタチテワガクニ）

四字黒日賣傍注

淡路國全圖

凡例

- 裁判所
- 警察署
- 郵便局
- 旧村境
- 郵便切手賣下所
- 道路
- 両郡役所
- 海川
- 標流
- 方位
- 山嶽
- 港湾
- 橋梁
- 郡境
- 村境
- 燈臺
- 神社

明治十二年三月十三日御届
同　十二年四月十五日出版
版權免許
著者　兵庫縣平民　安倍喜平
出版人　同縣平民　福浦文藏

路道嶋遥望歌曰於志弖流夜那尓波能佐岐用伊傳多知弖和賀久迩

西
東

エレミカイン
東

西
南
東
紀伊国
摂津

美禮婆阿波志摩淤能碁呂志摩阿遲摩佐能志摩母美由佐氣都志摩美由

華記裏書ニ淡路シマオノゴロシマアリマサノシマモシユトアリ

按スルニ仁徳天皇ノ朝ニテ淡路嶋自凝嶋先嶋各自立シテ一嶋タリ

国造本紀云淡道国造難波高津朝御世神皇産霊尊九世孫矢口足尼定賜国造

按スルニ上件ノ三嶋ヲ総括シ淡路国トシ国造ヲ始置セテル

日本書紀云天萬豊日天皇大化二年春正月甲子朔宣改新之詔曰置国司郡司定山川凡郡以四十里為大郡三十里以下四里以上為中郡三里為小郡其郡司並取国造

按スルニコノ孝徳天皇改制ノ日淡道国造ノ所治セル淡路国ニ国司ヲ置キ其衙ヲ以テ津名三原ノ二郡ヲ定メ国造ヲ以テ郡司トシ玉ヘリ

古記裏書ニ淡路ニマオノゴロシマアリマサノシマモシユトアリ

美禮婆阿波志摩淤能碁呂志摩阿遲摩佐能志摩母美由佐氣
都志摩美由

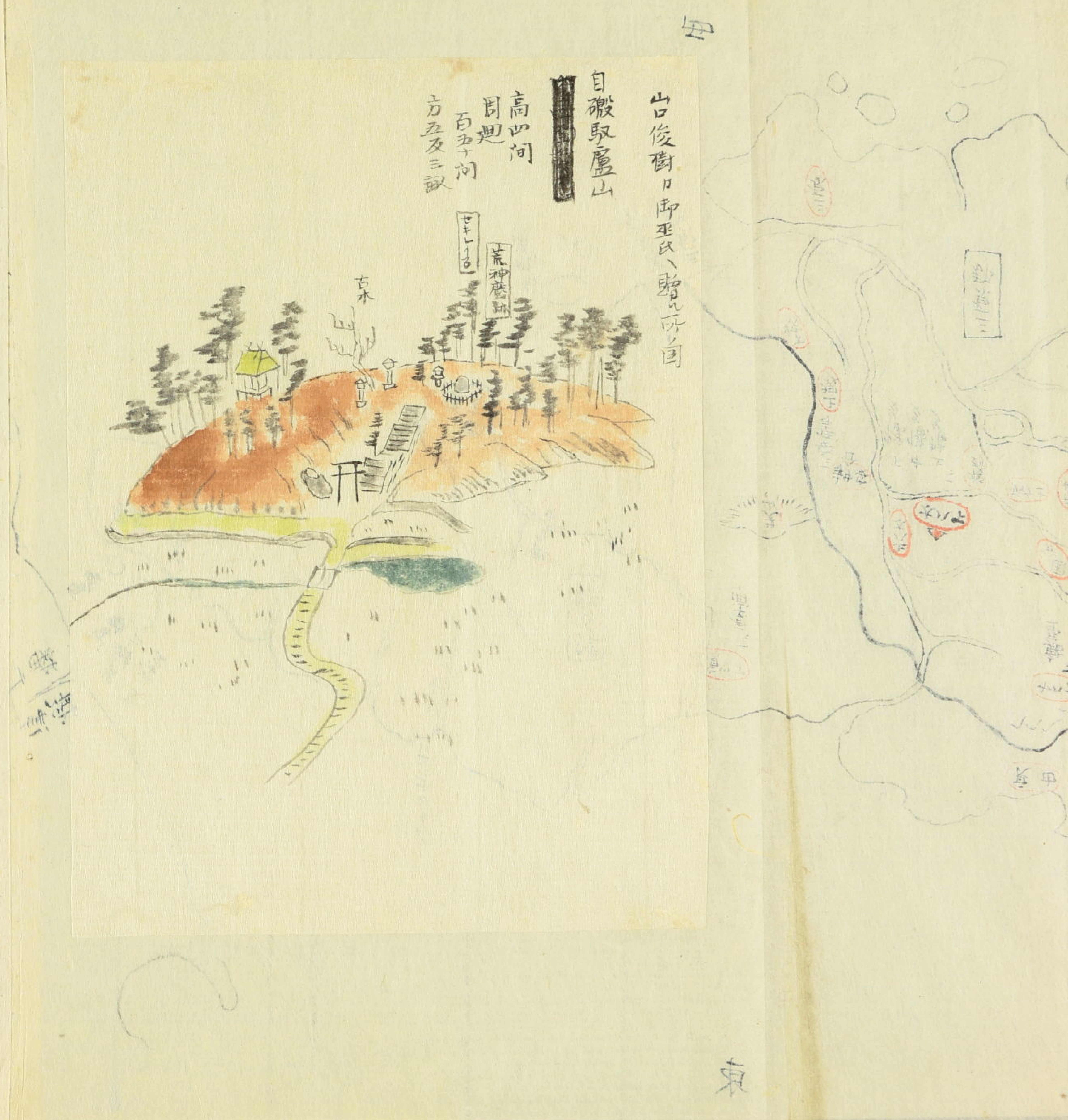
按スルニ仁徳天皇ノ朝ニテ淡路嶋自凝嶋 先嶋各自立シテ一嶋タリ

国造本紀云淡道国造難波高津朝御世神皇産霊尊九世孫矢口足
尼定賜国造

按スルニ上件ノ三嶋ヲ総括シ淡路国トシ国造ヲ始置セテル

日本書紀云天萬豊日天皇大化二年春正月甲子朔宣改新之詔曰
置ニ国司郡司ノ定ニ山川ノ凡郡以ニ四十里ヲ為ニ大郡ト三十里以下四里以上
為中郡三里為小郡 其郡司並取国造

按スルニコノ孝徳天皇改制ノ日淡道国造ノ所治セル淡路国ニ国司ヲ
置キ其衛ヲ以テ津名三原ノ二郡ヲ定メ国造ヲ以テ郡司トシ玉ヘリ



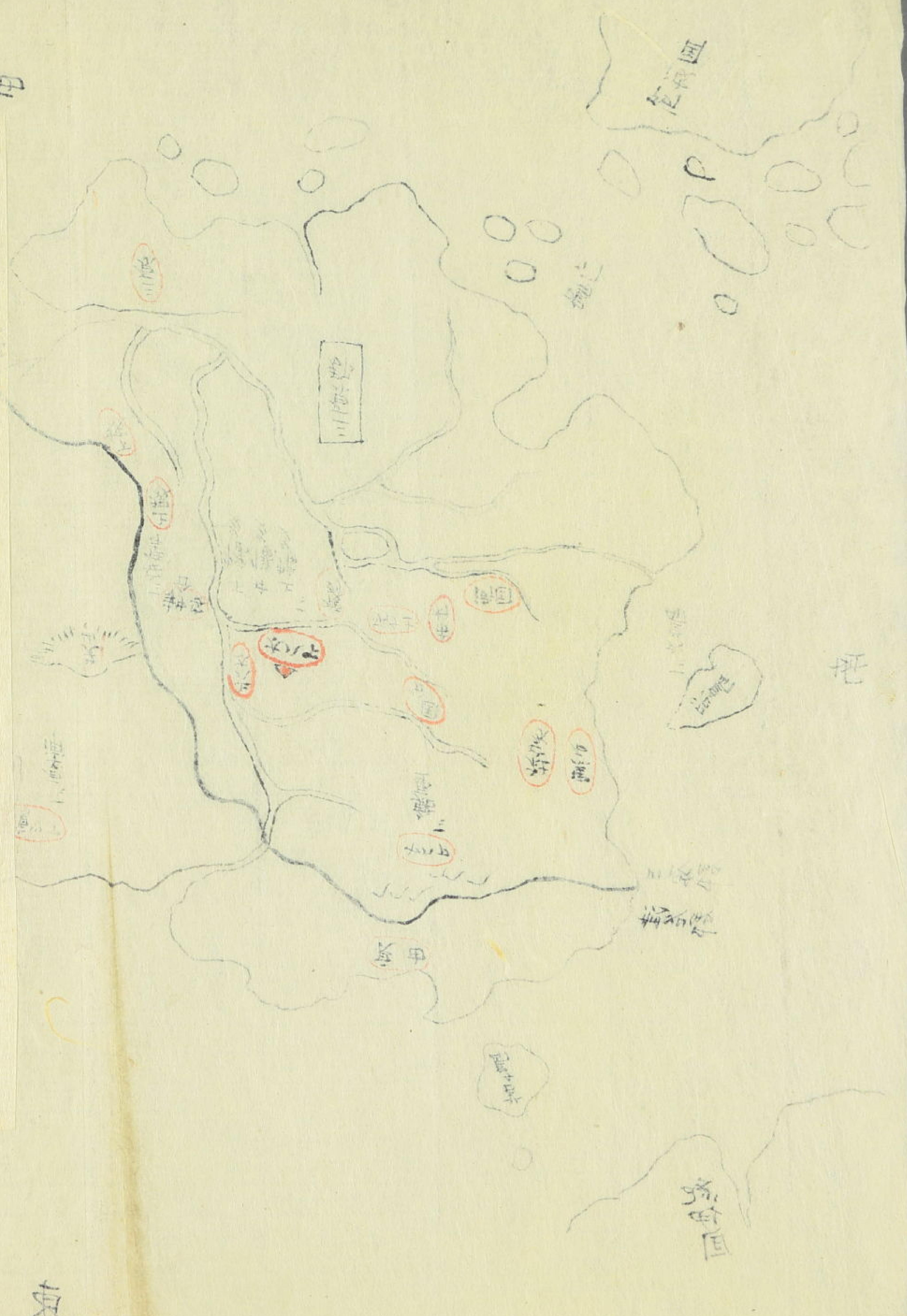
筆記裏書云 美禮婆阿波志摩淤能碁呂志摩阿遅摩佐能志摩母美由佐氣

淡路シマオノロシマアリマサノシマモミユトアリ

都志摩美由

按スルニ仁徳天皇ノ朝ニテ淡路嶋自凝嶋先嶋各自立シテ一嶋タリ

国造本紀云淡道国造難波高津朝御世神皇産霊尊九世孫矢口足



其二郡ノ名共ニ国有ノ郷名ヨリ出ツ其後ハ自凝島ノ地三原郡ト称シ淡路国府ヲ三原郡中ニ置シカハ終ニ淤能碁呂ノ名ハ穢勇ノ化セル小山ニ約縮シテ其山ノ存在スル地ヲ自凝島ト知ナルトニ云シリ

淡路人
山口俊樹古輪

[illegible]天皇の代に淡路島山[illegible]ひとよみせのひしと此説のめくり凝島山と淡路島山伊弉諾の尊[illegible]上古のさま[illegible]の子ひて[illegible]三所[illegible]河村翁のさまつ説ハ先山のあたりをいへるやいたれしもよしあり先山千光寺の山を伊弉諾二原二郎子[illegible]りて中に[illegible]此林の加茂[illegible]上に八津名郡[illegible]伊名郡よりとてへし

淡路門を舟にて出てゆく舟中より見れハ淡路伊名郡より先山のあたり高低二ツ三ツよされてつらなり今のさまハ皆くおきて上古ハ此先山の林もかゝりて淡とも不べき形なりしや　されハ仁徳の御製のさまとう嶋と嶋とみせてよませ給ひしと古(上)の心にありてみれハたもありぬべくここ

の開闢の世自凝島先つ凝りて其ニ并淡路島山を生せたまひしときも先山岩形の顕れ[illegible]里俗も開闢のさきよありとさる先山と称とやうにより林の内膳村より上る阪ほ十八丁こ見頂上よこハ卅丁もありぬべきこの両上よりよくみゆる

右明治十二年六月御巫氏ノ説ヲ記ス

應神紀二十二年春三月ノ条ニ淡路御原海八十人云々ノ事アリ

八太村ノ近ニ神本(トキハクサ)ノ驛アリ続紀二十九淡路国神本驛ノ事アリ

国衙村　常盤名草ト云地頭方村ト並ヘリ梅[illegible]国府を国衙とも云古の国府ハ市(イチエ)模並(?)ノ地ナリコレハ武家ノ世トナリテ国府を廃シヌル頃ヨリ国衙ノ官人の置かれし処なるへし

市村　(日本)舊ハ国府市ト云古の国府の跡なり小榎並村ヲ府中と云所あり土箇所村ともに同しく国府の地なるへし

国府

同書に 周礼の注に百官の居所を府といふとあり
又国衙ともいふ衙ハ場なり言塵集に吏都（ヒナノミヤコ）とハ国府をいふとあり古ヘ国府記あり今ハなし
源順和名抄曰淡路国府在三原郡
按するに加茂山にある所の元久二年の廳宣を見るに留守所に宣すとあれハ其比まてハ国司館の留守所ありしや鎌倉将軍養宜郷に守護所を置てより古よりの国府ハ漸く停廃せしなるへし

国司館

国府市村ノ中ニ国衙といふ処あり
同書に 是国司館の故跡なるへし古ハ諸国に国司を下して国府に居り国司の居邸を御館といふ

大和国魂神社 上八太村ニアリ

同書に 延喜式曰三原郡大和国魂神社名神大
案するに延喜式に大和国山辺郡大和坐大国魂神社三座並名神大月次相嘗新嘗とあり此社と同神なり神名帳頭注曰大和社者大国玉大歳須奴比売三座崇神天皇人王十代六年鎮座
清和天皇貞観元年正月廿七日従一位

国分寺 護国山 国分村ニアリ

同書に 續日本紀巻十二 聖武天皇天平九年三月丁丑詔曰国毎に釈迦仏像一軀挾侍菩薩二軀を造り并て大般若経一部を写しむ 按るに元亨釈書資治表十 此事を載て是国分寺の権輿なりとあり

度相記

阿波泥辞摩異椰數多那羅珥阿豆枳辞摩異椰數多

那羅珥豫呂辞枳辞麿之麿之

言別之並二並とてハ淡路島ハ擬能碁呂島ト並ひ小豆島ハ児島と

並ヒテ各く二ツく相並て以ル故ニ並子並二並てあるしとそよえれ

行暑妻杯ニ児島小豆島西南ニ並テアリしといつるあるべし

古事記の速秋津日子速秋津比賣二神河海によりて持別て生ませる神

の御名と山津見神野椎神二神山野によりて持別て生ませる御子神の名

とハ惣神世七代以上の神名にあへる）中に沫那藝沫那美ハ面足神の

亦名沫那蕩神の御名にあへり頬那藝頬那美の頬ハ面と同言

これハ面足神に縁あり天之水分神國之水分神ハ未考ねれ

豊組野尊の組ハ延ひてりまりるよべきるや　こゝをコモリともいへハあり

天之久比奢母智国之久比奢母智の久比ハ角杙活杙のクヒなるべし

天之狭土国狭土ハ国常立尊国狭土尊あり天之狭霧国之

狭霧神ハ旧事紀に天譲日天狭霧国禅月国狭霧尊あり

天之闇戸ノ国闇戸ハ思ひいれクラゲナスタヾヨヘルなどに縁あるか

大戸惑子大戸惑女ハ大苫彦大苫姫にあへり

神字

先代舊事本紀四十一　経教本紀

神文

先天神文音

渠(ヒ)普(フ)味(ミ)與(ヨ)彙(イ)務(ム)奈(ナ)　夜(ヤ)古(コ)堵(ト)茂(モ)知(チ)　爐(ロ)羅(ラ)牽(ネ)紫(シ)

紀(キ)流(ル)庾(ユ)闈(ヰ)　廚(ツ)窊(ワ)努(ヌ)穌(ソ)　汚(ヲ)哆(タ)披(ハ)眴(リ)　馬(メ)嘉(カ)宥(ウ)於(オ)

依(エ)介(ニ)滓(サ)　利(リ)汨(ヘ)轉(テ)　能(ノ)摩(マ)數(ス)　亜(ア)世(セ)帯(エ)　舗(ホ)列(レ)結(ケ)

此文字を先天神字トシテ神代より傳りしよしにいへり是ハまさしく神字をよましめしためニ古人の填たる漢字なるへし然るを推古天皇の皇太子に詔して解釈せしめたるよしなりてハ潮音ハ私意なり　此次ニ後天神文言とて

人(ヒ)命(フ)道(ミ)善(ヨ)命(イ)報(ム)名(ナ)親(ヤ)児(コ)倫(ト)元(モ)因(チ)心(ロ)懸(ラ)錬(ネ)忍(シ)君(キ)

主(ル)豊(ユ)位(ヰ)臣(ツ)私(ワ)盗(ヌ)勿(ソ)男(ヲ)耕(タ)田(ハ)畠(メ)女(カ)蚕(ウ)績(オ)織(ヘ)家(ニ)饒

栄(サ)理(リ)宜(ヘ)照(テ)法(ノ)守(マ)進(ス)悪(ア)攻(セ)欲(エ)我(ホ)刪(ケ)

これ潮音が彼の渠普味の詞にはなれて意を合めりと譏論ならる考を起して聖徳太子がよく釈れかひしよしをに偽り作りたるものなり　此義ハともかくもなかぬことはあるなる潮音が此偽作せる若ししハ察たべきことなり　此の文字の中に親児倫元因あるいは男田畠耕女蚕績織などの文ハよく附會

しかり宣を祈へとましまく衣の假字に家を塡惠の假字に
繪を塡たるなどハ假字も取違ひたるを知らざるハ可笑けり

同書四十巻 天神本紀下

天照大神詔曰云云次以四十七言詔吉大巳貴尊
其霊句曰一二三四五六七八九十百千万億兆
京稀垓壤溝澗正載空蘿北遥玄霧颷潮
多宇渾瀛霧經光山濱洲餘瀨聲块彼消
如是宣依大巳貴尊與天八意命同意
以是言造神代文字以是四十七言字通連作方
言句

此八八心思兼命又大巳貴神などの文字を作りといへる
傳のありしによりて文を作せるなるべし

同書序

忌部卜部同臣等敢不惜祖紀一行但有祖神土筒昔磐
~~余彦天皇御宇~~皆磐余彦天皇御宇豊天富命天種子
命倆之神魂以安土筒於本祠尒於此遺大徳小埜
妹子臣於平圍宮大連紮河勝於泡輪宮云云両
使報命云云皇太子延手攀蓋鑄之土筒自闢矣
中得土簡同見五十个神代支跡皆茲分明也

此書に泡輪宮トアルハ阿波国の一宮の神字ありと聞傳へて
記せるなるべし 同書に阿輪國阿輪社などゝも記せり 強ひて
古めかさむとて字を替へて書りと見ゆるは假字の違へるを
さへ知らざるなり 阿波一宮の神字ハ今も傳りしれハ
土笥の文字とかいへるハ平国神社にありしなるべし 今ハなし

越賣眉引国

釈記播磨風土記 息長帯日女命欲平新羅国云々
比々良木八尋桙根底不附国越賣眉引国玉甲甲賀
賀益國苫尾有宝白衾新羅国矣

高志国

井上頼国本花
本教譜誦歌 鶴峯戊申ノ著書 云 高志乃国とハ今世に諸越
と其国べこて當初伊奘諾いざなぎの二神ノ開キまし
其国人も瑞垣の久しき代より神国に仕奉りて其之
住し地なりまし高志とて 高志国即赤縣神州也る
神代紀越洲自別高志
猶謂諸越耳 按豫章記曰船主答曰テ我ハ唐土越国者
也云云 思ハ越国ニテ二千ヲ儲候也云云 越国ノ住居モ懶 云云
是指唐土ヲ高志明証也云云 直澄云コヽニ出雲風土記ト古
事記ハ八千矛神ノ条ヲ引テ証トセリ
高志の八口とふるハ今清土より日本に通ふ
舟路の八処に別れたる如其国に入立口の八ッ有るを

あくハいひけるものゝふし
程図ニ日本海路都有八北京。江南。寧波。廈門。廣東。交趾。謂ニハロ之口ニ音猶如今琵琶口 黄ハ河口楊子口耳大清国道
大寛是也ト云

七十五年祭 七年祭 三年祭

常陸西金砂東金砂村アリ金砂(カナサ)神社アリ七十五年ヲ大祭トス
大田郡アリ七年ヲ小祭トス 小田郡アリ静(シツ)村静神社ハ三年ヲ
以テ大祭トス 復三年行アリ 常陸人ノ話 諏方神社ハ二十一年ニ大祭ヲ
執行アリ皇大神宮モ同シ 是ハ二十年ノ満年ヲトルナルベシ

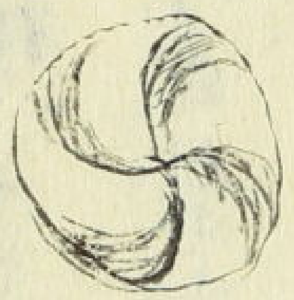
日祭(ヒマチ)

世俗 御 他人ヲ招キイト睦マシク物語ナドシテ饗応スルヲ
ヒマチナト云 即日祭(ヒマチ) マツリノ約マチ也 ナルベシ是日神ヲ祭ル
ナリ姓氏録ニ日奉連 高魂命之後也トアリ天武紀十
三年ノ条ニ日奉造賜日連ノ敏達紀六年二月詔置ニ
日祀部私部ノ○用明紀元年酢香手姫皇女歴ニ三
代以奉ニ日神ニ ナドアルヲ思ヒ合スベシ又姓氏録 佐伯日奉
造大伴同祖押日命之後也トモアリ

町形廻毛

姓氏録 額田部湯坐連 天津彦根命子明立天御影
命之後也允恭天皇御世ニ被遣ニ薩摩国ニ平ニ隼人ニ復

奏之日獻ニ御馬一疋額有ニ斑形廻毛一天白王喜曰之
賜ニ姓額田部ト也
案スル斑形廻毛トハ古篆ノ斑形ノ如クナリしな
べし



如此廻毛なるべし

花山家蔓抄法 四冊

中山大納言東下ノ砌ヨリ
記セシ 卿橋安久

家康公比叡山にならひ東叡山ヲ建立せむことを
ひとへに朝廷ニ乞ヒ許されしに三代将軍家光公神君の
年四十歳ニ当る時再び之ヲ乞ふといへる将軍武威を
はかり朝廷にさからひしありて寛永を主城同様とせ
むとのことありとて勅許なし松平伊豆守のはからひ
とて石川主殿頭ハ菊亭家ヲ和歌のはしとして
あられハ主殿頭をして上京せしめ鷹司関白の
弟子好むことを菊亭家に向はしむ関白ハ華道

執心のよし聞えけれハ嵯峨天皇の震翰小野道風（一ハ足利より織田ニ傳ハ織田より豊臣ニ傳ハ豊臣より徳川ニ傳フ）
の真跡菅原の真筆ハ将軍秘蔵の品ニ金
一万両を添へて（松平下総守忠知を上使とし）将軍より見舞として関白ニ贈
やうて勅使下向ありて東叡山建立を許され天海へ
大師号を贈られけりこの時将軍二心なきを表し
妹君を女御ニ奉り将軍上洛ありニ条城より参
内ありて洛中の町人へハ土産として黄金を出されて
銀百十一貫を賜る天皇二条城へ行幸あり
天皇喜悦のあまり二代将軍秀忠公へ太上天皇

の尊号を贈り折入帝と称し仙洞のあつかひ
たりこれ異例の格ニあられハなり
○後桃園院（光格天皇）兼仁（トモヒト）天皇ハ閑院宮より出つ実父閑院宮へ
太上天皇の尊号を贈らんとせしを関東ニ問ひせしニ関東
より太上天皇の貢千石二千俵を贈らじあるも五ヶ条の
疑問を差向け

○もふト云諺の事
もふといふ語ハ初メと盛りとを兼ねたることあり
もふ嫁（ヨメ）もふ婿（ムコ）水のもえもふ（満水ニ云）茶の煮えもふ

寝(ネイ)入りたるなどのごとし　初ノ義のことなるハ（もなきハ云云
来るハ云云といひ　あがりもなし　家ノ入口ヲ云　馬場(バウ)だなし　驛ヨ云
鼻(ハナ)同義なるらん　漢土ニハ鼻祖いふ　花ハ盛なる方ぞのごとし　今持鼻ト書
勝栗もヨ
赤坂の宿を
立も此宿の
出端(でもなく)ちかきアリト
いふなるらん

キリと云詞

耳ニてきく　鼻ニてきく（香をきく　鼻がきく　鼻ニてかぐ）
と云皆同語なり　聴利と字ニて書く時ハ別義なりけり
如し　目利(メキキ)ハ　足利(アシキキ)ハ下野アシカガハアシキキナリ　手利(テキキ)　口利(クチキキ)　氣(キ)が利(キク)
氣轉が利(キク)　云フコヲ利(キク)　これハ聴字なく

以龍紀官 立二相 畫八卦 造書契 制嫁娶 教民佃漁牧畜

太昊伏羲氏

風姓代燧人氏而王始畫八卦造書契制嫁娶教佃漁養犧牲故曰庖犧

造琴瑟

女媧氏

風姓始作笙簧諸侯有共工氏与祝融戰不勝而怒乃頭觸不周山崩女媧乃煉五色石以補天斷鼇足以立四極聚蘆灰以止滔水於是地平天成

以火紀官 種五穀 為歷市 制医薬

炎帝神農氏

姜姓繼風姓立斲木為耜揉木始教耕嘗百草始有醫薬教人日中為市

居軒轅生於庭鳳皇巣於閣麒麟遊於囿

誅蚩尤於涿鹿

黄帝軒轅氏

公孫姓又曰姫姓名軒轅有熊國君少典之子也炎帝世衰以雲紀官諸相侵伐作指南車占斗建作甲子造暦作算数

作算 造律呂作楽 制医書 教民蚕

置左右大監監万国 立制十二律管用鑄十二鐘以和五音

祖及史官 制文字 立 制衣裳 作器用 作貨幣 制武備 設陣法 立占天官 作甲子制歷象

井制田 作宮室

少昊金天氏

名玄囂黄帝子也

以鳥紀官 作大淵楽

顓頊高陽氏

黄帝孫代少昊而立始作暦以孟春為元

命五官 命重黎治神人 制九州 改歴象以建寅月為歴元

作承雲楽

帝嚳高辛氏

黄帝曽孫代顓頊而立

作六英楽

作歴象以授民時 巡狩方嶽

帝遊於康衢 觀華 命鯀治水

舉舜登庸 舜八愷八元

舜流四族

帝堯陶唐氏

伊祁姓名放勲帝嚳子有草生庭曰蓂莢觀之以知旬朔子丹朱不肖堯崩舜即位

舜納於大麓乃使禹平水土益掌火棄教民播種契司徒敷五教

堯立七十年有九年之水使鯀治之九載弗績

舜受終於文祖 制五刑 作大章楽 禹治水成功因定九州貢賦 肇十有二州

帝舜有虞氏

姚姓名重華瞽瞍子耕歴山民皆譲畔漁雷澤人皆譲居堯聞之聰明妻以二女子商均不肖舜崩禹即位

夏后氏禹

姒姓名文命鯀子鯀湮洪水舜舉禹代鯀告厥成功舜崩乃踐位

殷王成湯

子姓名履大旱七年湯斎戒禱桑林之野大雨方數千里

帝辛

名受号為紂有蘇以妲己女焉有寵酒池肉林為長夜之飲百姓怨望重刑辟為銅柱以膏塗之加於炭火之上使有罪者緣之名曰炮烙之刑

帝舜有虞氏

立誹謗木、造五絃琴、作簫韶楽九成、鳳皇来儀、定考功法、作卿雲之歌

夏大禹

丙子元歳會諸侯於塗山執玉帛者万国 庚辰五歳巡狩

癸未八歳巡江南会諸侯

太康　辛亥畋於洛表羿拒於河遂都陽夏

仲康　癸亥命胤侯征羲和

相　戊寅有扈氏賓服　壬午寒浞殺羿

少康　(甲子少康自有仍奔虞　壬午夏遺臣靡與師　討寒浞伏
誅奉王踐天子位王命誅澆及豷復禹舊績夏道復興

癸　(甲子公劉遷於豳　乙亥伐蒙山有施氏獻妹喜王嬖之
丁丑商主癸卒子履嗣位居亳

商王成湯　(乙未王誓師伐夏桀放之於南巢　二月商王踐天子位於
亳建國號曰商改正朔易服色　辛丑大旱禱於桑林
以六事自責作大濩樂

太戊　甲辰用伊陟臣扈相大修成湯之政諸侯畢朝

盤庚　庚子遷都於殷改國號曰殷

小乙　甲寅古公亶父自豳遷於岐改國號曰周

武丁　己未得傅說為相　戊子伐鬼方

帝乙　庚午命周公季歷為侯伯

紂辛　甲寅有蘇氏獲妲己嬖之　丁巳醢九侯鄂侯諫脯之
囚西伯於羑里　丁丑周西伯東觀兵　戊寅殺比干
囚箕子微子去之

周武王　己卯春二月周師陳於商郊師會戰於牧野商師
潰受及鹿臺自燔死　武王即位國號周以建子月
為歲首復商舊政　遷都於鎬　作大武樂

成王
戊子秋大雷風王迎周公於東　辛卯越裳氏來朝
甲午封弟叔虞為唐侯　戊戌作九府圜法

康王
戊子太保召公薨

穆王
甲寅征犬戎　己巳作呂刑

厲王
周召二相共理國事曰共和　壬子以榮夷公為卿士
乙卯使衛巫監謗殺言者

平王
壬申鄭掘突為司徒　庚寅歲山　甲午詩人作黍離
乙未畿內大夫久殺子外
甲子鄭伯朝周　乙丑凡伯聘魯　丙寅魯鄭易防許

桓王
丁卯鄭伯以王命伐宋　戊辰宋蔡衛伐戴鄭人伐取之
己巳魯軌弒其君自立　庚午鄭伯以璧假魯許田
壬申曲沃敗晉師獲哀公　癸酉曲沃殺哀公　甲戌
王伐鄭鄭人射中王肩　乙亥蔡人殺陳佗　丁丑

莊王
楚僭稱王　庚辰鄭忽出奔衛　癸未秦出子
甲申鄭忽歸于鄭
丙戌鄭弒其君　丁亥齊伐魯　癸巳衛侯朔入于衛
乙未齊無知弒其君　丙申齊殺子糾　丁酉齊滅譚
元年魯侯齊侯盟于柯　辛丑鄭殺子儀而納厲公

僖王
壬寅齊侯會諸侯于鄄　癸卯諸侯盟于幽

惠王
丙午王子頹作亂　丁未王處于樂　己酉楚惲弒其
君而自立　庚戌楚修好諸侯　辛亥曹羈出奔陳
郭亡　壬子晉殺群公子　癸丑晉城絳為都
甲寅王賜晉侯命　乙卯齊伐衛衛敗　丙辰晉驪姬
生奚齊　己未魯殺子般　庚申晉滅耿霍魏
辛酉狄殺衛公　壬戌邢遷于夷儀　癸亥諸侯城楚丘
丙寅會于首止　丁卯杞成元

襄王
庚午狄滅溫　癸酉楚滅黃　丙子秦伐晉獲晉公
壬午楚執宋公　甲申王命狄伐鄭　乙酉王出居于鄭
丙戌王殺子帶　戊子齊潘殺世子而自立　甲午
晉敗秦師　乙未楚商弒其君而自立　丁酉秦人伐晉
戊戌　王賜秦伯命

頃王
戊申齊商人弒其君而自立

匡王
庚戌宋弒其君　壬子莒弒其君

定王
丙辰鄭弒其君　己未楚滅舒蓼　壬戌陳弒其君
癸亥楚入陳　甲子楚敗晉師　己巳盟于斷道
庚午許吳公元年　辛未王師敗　壬申晉伐齊
師　癸酉晉作六軍

簡王
丁丑吳伐郯　戊寅晉殺其大夫　己卯晉執鄭伯
壬午周公奔晉　癸未曹負芻殺世子自立　丙戌晉
敗楚子于鄢陵　丁亥盟于柯陵　戊子晉弒其君

靈王
辛卯盟于雞沢　乙未杞孝公元年　丁未諸侯盟
于祝柯　己酉公子圍任

景王
戊午鄭使子産為政　己未莒人弒其君　壬戌楚執
徐子　癸亥楚滅頼　乙丑鄭人鑄刑書　己巳楚殺
蔡侯　丙子晉滅陸渾戎　丁丑鑄大錢　戊寅
許弒其君　辛巳王子朝作乱

敬王
甲申杞悼公元年　乙酉王入于成周　丙戌吳光弒其君而
自立　辛卯城于成周　癸巳楚伐吳吳大克　丙申楚
甲包胥乞秦救楚　丁酉僭翮作乱　己亥伐
僭翮　癸丑魯隨三都　乙巳越勾踐元年　庚戌

盗殺蔡侯　壬子斉其君　乙卯杞閔公元年
庚申魯獲麟

元王

戊辰 范蠡去越

貞定王

癸未晋滅范中行氏及夙由　甲申晋知伯専政
乙酉晋伐秦取武城　丙戌鄭弑其君　戊子晋攻荀
瑶滅之　甲午楚滅蔡　丙申楚滅杞与秦平
丁酉晋滅伊洛陰戎

威烈王

戊午（辛酉）盗殺晋侯　癸亥楚滅鄭　丙寅衛穎殺其君而自立
庚午斉伐魯取三城　壬申魯侯尊礼孔伋　癸酉晋
取中山　戊寅王命三晋大夫為諸侯　己卯盗殺楚子

安王

乙酉鄭弑其君　庚寅斉田和遷其君於海上　甲午
遷斉康公海濱　乙未命田和為斉侯　丙申秦
弑其君　乙巳三晋廃其君而分其地

烈王

丙午韓滅鄭　庚戌韓弑其君　辛亥斉侯来朝

顕王

丁巳秦為侯伯　壬戌秦定変法之令　戊辰斉伐魏
以救趙　庚午韓以申不害為相　辛未秦廃井田
乙亥衛貶号曰侯　戊寅致伯秦　庚辰魏伐韓
斉伐魏以救韓　癸未秦殺商鞅　丁亥楚滅趙
戊子六国合従　己丑蘇秦去趙如燕　壬申宋偃
逐其君而自立　癸巳秦以張儀為相　丁酉蘇
秦自燕奔斉　戊戌秦相張儀免出相魏
庚子　斉田文号孟嘗君

慎靚王

甲辰斉殺蘇秦　乙巳秦伐蜀取之

報王

戊申楚屈匄伐秦　己酉燕立太子平　壬戌秦取

楚王　癸亥斉田文自秦逃皈

明治十二年二月廿八日東京日々新聞

七一雑報ニ世界ニ驚クヘキ景況ト題シ且ツ記シテ曰地球中ノ表面ニアル人数八十億余万ニシテ彼等ハ三千〇六十四種ノ詞ヲツカヒ一千種ノ宗旨ヲモテリ又人ノ壽命ヲ平均スレハ一人ノ命ハ三十三年半ニアタリ古十億余万人ノ中一年ニ三千二百万人づヽ死スル割合ナレハ一日ニ九万一千人死シ一時ニ三千七百三十人死シ一分ニ六十人一秒ニ一人づヽ死スル割合ナリ

明治十七年三月二日讀賣新聞第二千七百三十三号

此程米国ノ鉱山師スペンサトデヌールノ両人ガグランドカノントニフ山ヘ到リ銅鑛発見ノ為メ山奥深ク分ケ入シニ数千年ノ前ハ曠漠ナル平原ナリシモ地底ノ変動ニテ今ハ深キ谷トナリ左右ハ百十八尺余リ岩石岨立チ谷ハ纔カニ木樵ノ通フ道ヲ残スバカリナルガ両人ガ此処ヘ分ケ入リシトキ白砂ノ上ニ奇シキ印ノ跡有ルヲ認メタリ立寄リテヨク見ルニ大イナル人間ノ足跡ナリ指足形踵

ナドマデ判然ト現ハレテ見紛フ方ナシ其長サハ我二尺余巾ハ九寸余其深サハ三寸踏ミ止メタル所ハ四寸五分アリ而シテ此足跡ハ数丁ノ間小径ニ添フテ続キ足ト足トノ距離殆ント十八フートアリタリ両人ハ余リノ不思議サニ其足跡ノ付キタルマヽ土ヲ掘リ起シテ土産ニ持チ帰リ人々ニモ示サント思ヒシガ何分此日ハ三足ノ馬ヲ牽キイロイロノ鑛山道具ヲ持チテ居レハ掘リ起ス自由ヲ得ズ其マヽ見過シテ立帰リシトゾ

寒山 拾得 傳ハ景徳傳燈録ニアリト覚エ

寒山ハ風顛ノ道人ニシテ常ニ筆ヲ携ヘテ詩ヲ得ル毎ニ之ヲ書ス拾得ハ五臺山僧房ノ炊夫ニシテ食ノ餘レルヲ竹筒ニ貯テ之ヲ寒山ニ与フ二人相得テ好ト云 畫工箒ト巻軸ヲ持ツ畫ヲ作ルモノハ筆ト竹筒トヲ誤レルナリトソ

おろがハおろへまかる

野中やら越室あまり北僕とよふべきオロガハと

寒さま所へまいるをオロヘマカルといふ

○ 黒羽本日本紀　羅紗紡織法

官報 明治十九年十二月十一日ノ抄　下野黒羽旧藩主大関増六世ノ祖土佐守増業ハ伊豫大洲ノ産ハ括嚢齋ト号ス　講武ノ餘暇蘭学ヲ脩メ点茶彫刻及陶冶ヲ善クシ殖産興業ノ事ニ當メリ綿羊数頭ヲ牧養シ羅紗紡織ノ工夫ヲ発明シ井上多十郎佐藤紀八等ニ従事セシム果サズシテ卒ス　文政ノ年間ヨリ　校訂日本紀世ニ行ハル遺稿機

織彙備二巻 旧藩士矢野保ト云ヘル者敗篋中ニ得ト云

○モルモン宗 明治十九年十二月八日郵便報知新聞（西洋風俗記）

モルモン宗ハ今ヨリ五十年許前ニ米國ニ一賤民ノジョセーフ、スミス、ノ開創セル一流ニシテ此スミスナル者ハ別ニ著ハレタル程ノ履歴モ無キ田舎百姓ノムスコナリ左レド母ハ異常ノ処アリシ婦人ニテ平生ヨリ口癖ノ如ニ己ハ必一人ノ豫言者ヲ生ムベシト云ヒ居タリ此婦人ノ腹ニハ彼スミスノ外ニ学識人ノ子供ヲ挙ケタリシカ母ハ何カ見認ムル所アルニヤ他ノ児ヲハ棄置キ彼ノスミスヲ此子豫言者トナルベシト云ヘリ此スミス如何ナル故ニヤ生落テ一同ニ笑フト云フヿヲセズ唯下ニ俯キ居ルノミナリシ子供ラシキ遊ヲモセズ唯ウツブシテ思慮スルカ如シ十二三ノ時早ク近村ノ評判トナレリスミスガ十五六歳ノ時井戸ノ中ヨリ一塊ノ怪石ヲ堀出シ此怪石ニ顔ヲ掛クレハ感應アル由ニテ云出シタルカスミスノ始テ宗教世界ニ一ト足ヲ踏カケタル初歩ナルベシ此頃スミスノ取沙汰スデニ盛ニシク信仰スルモノモタクシトニ崇セラル然ル所スミスカ一宗ノ祖師トナリシハシカコヨリ行脚ノ僧ト手引シ密談シテ別レタル時ヲ始メトス是ヨリ神ノ告ニ因テ山嶽ヨリ銅牌若干枚

ヲ堀出シ其牌面ニ彫リアルハ皆イスレールノ古語ナリ一ヲ神
ノ助ニ因テ読得タル所謂イスレール十族ノ一ナル猶太王レヒト
ノ子ニフヒーノ記シタルモノナリ ニフヒーハ国難ヲ避ケテ
其一族ト共ニ故郷ナルヂヱルサレムを逃出で大洋を横ぎり
て此米国に殖民したりしが其後は数世を経しも落
擲せりスミスハ自から之を英文譯して出板せり則ち
今のモルモン宗の経典ブツク、オフ、モルモンと称するもの
是ナリ

○大男　明治十九年十二月十九日
郵便報知新聞

或外国新聞ニ此大男ハ名ヲ（ウヰンケルメイエー）ト云ヒ墺地利
ノ産ナリ年齢ハ僅カニ二十一其丈ハ日本ノ鯨尺ニテ八尺五寸
足ノヒラハ一尺六寸掌ハ一尺二寸ノ長サアリ近日巴里ニテ
ミセモノ場ニ現ハル、由ナルガ其両親ハ世間並ノ高サナリト云

○全戸数人口　明治十九年十二月廿一日朝野新聞
日本全国民戸口表
此程内務省総務局戸籍課ニ於テ刊行セシガ本年一月一日ノ調
査ニ係ル全国戸数総計ハ
七百七十二万七千六百十戸
人口総計ハ
三千八百十五万千二百十七人

内
男 千九百三十万二百六十一人
女 千八百八十五万九百五十六人
（旗籍）
華族 三千四百十九人
士族 百九十四万八千二百八十三人
平民 三千六百十九万九千五百十五人

昨年出生総数
百二万四千五百七十四人
内
男 五十二万三千七百六十三人
女 五十万八百十一人

同死亡総数
八十八万六千八百二十四人
内
男 四十五万三千三百六十一人
女 四十三万三千四百六十三人

○奇病

明治十九年二月廿二日 郵便報知新聞

米国ウヰスコンシン州アナベル、ランゲト云ヒ當年九歳ニナレル女児アリ云云今年一月ヨリ次第ニ食事スルヿ減ジ初メニハカフェーヲモ吞マヌ様ナリシガ次ニハ肉類青物ヲ食ハズ次ニハ牛乳菓物ヲサヘ口ニセヌ事トナリ終ニハ水ノ外ハ一切飲食セズ然レ𪜈顔色常ニ異ナラズ専ラ打開ケタル地ニ出テ清涼ノ空氣ヲ吸フヿヲ好ミ唯日昔暮原野ニ遊ブコトナラヌヲ苦痛トセリ断食五十三日ナリ五十三日メニ至リテフト ソコニ散レルパンヲ ネリ居タルガ俄ニ食ヒツキテ

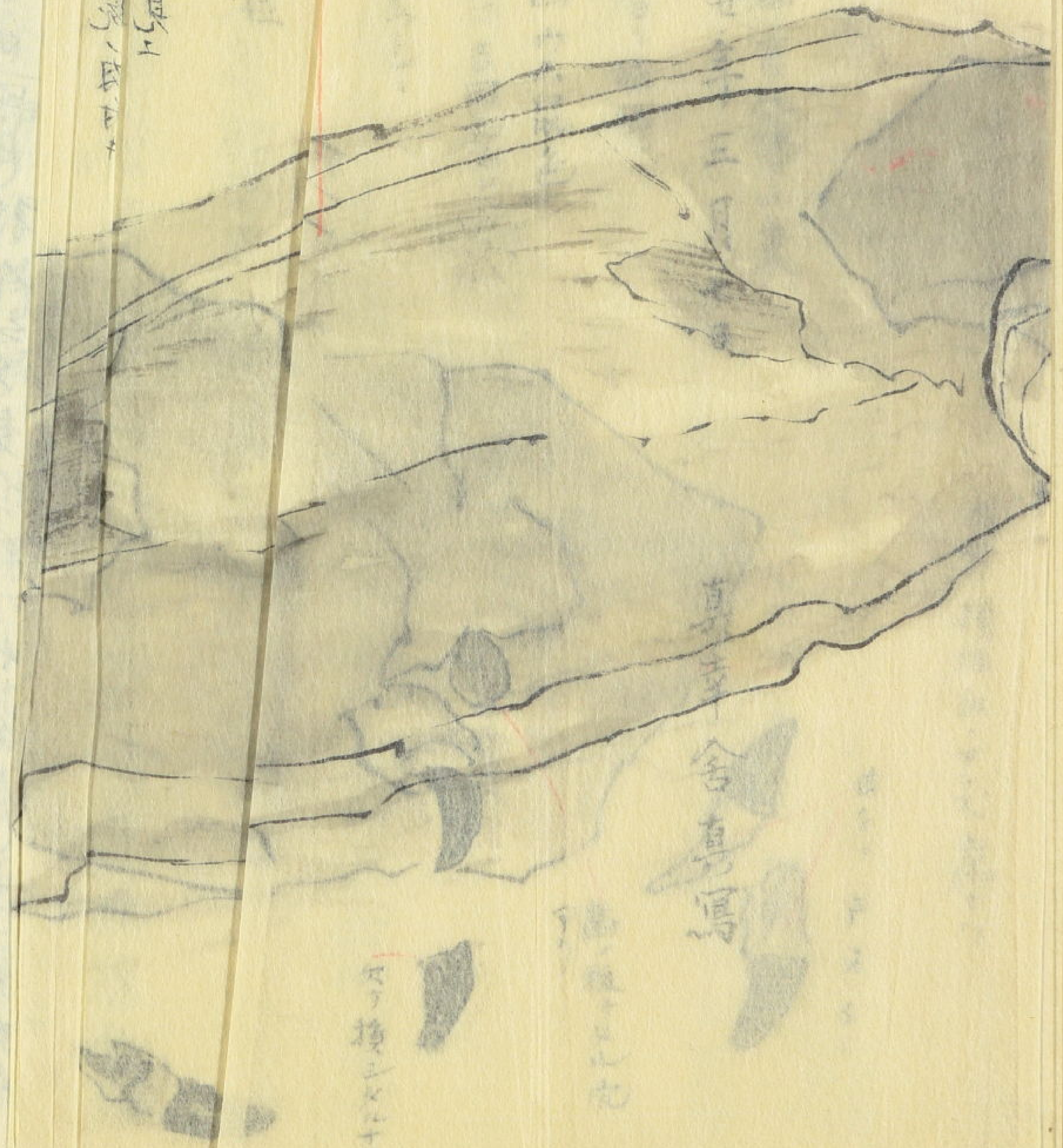
元ノ次第ヲ追テ食物ヲ食ヒ常ノ如クナリト医者ノ
話ヲ聞クニ（此間）言タリ名ル徴候モナクシテ双方ノ頬ノ青ミ
カヽリタルト五十三日間ニ目方廿オンス（七十五匁四分七厘許）
減シタルノミナリト

○奇男子　明治十九年十二月廿三日　郵便報知新聞

福島安正印度内地ヲ遊歴シ其印度紀行中ニ一日同氏ハ内地
の或育児院を一覧せしに ウーフボーイ（狼ノ児ト云義）と名
けし奇男子あり 何故にかく名しやと問しに案内者曰此男今茲
四十餘歳なるが幼ナの時狼に引掠はれ廿四餘年狼の棲穴に
育てられしに或日猟人之を見付てつれ帰りし 廿餘年人
間界にもありしかともなれは習性となり 四ッ這ひにはひ廻り
煮熟せし食物をきらひ 鼠又牛ノ生肉等を与ふれハ
喜び食ひ 種々に手を盡して四ッ這丈ハやめさせたるの
物言ふことハいかに教ゆるも覚えぬとあり

辛夷　暢草ハ是カ

韻會小補 夷ノ注ニ 辛夷ハ花名 其樹高丈餘 楚辭九歌 辛夷楣
兮薬房ノ注ニ 香草本草ニ云 小時氣新 新ニ香也 ○ 馮衍顕志賦 木蘭
與新夷一些[illegible]而暢耀兮紛郁々而暢[illegible]云云 辛夷馮作新夷
者



明治廿三年三月

真幸舎真写

栃木縣河内郡宇都宮八幡山裏
大曽橋田村 俗ニ焔硝蔵ト云
城守稲荷神社境内ヨリ掘得ル
所ノ化石之圖 大サ如圖 ウス鼠色
石ノ質ハヤハラカナリ 社守吉田卯吉所蔵
獣類ノ歯ノ如ク スルドク黒色ニ
青ミヲ帯ブ
長サ八寸余 巾四寸位
厚ミ壱尺余

明治廿年三月七日

真幸舎真寫

栃木縣河内郡宇都宮八幡山東
鶴田村 俗ニ...
城内稲荷神社境内ヨリ出ル

鬯

韻會小補 說文鬯以秬釀鬱草芬芳攸服以降神也从凵
凵器也中象米匕所以扱之引易不喪匕鬯徐曰秬黑黍也服服
事也周人尚臭灌用鬱鬯云周禮春官鬯人註鬯釀
秬為酒芬香條暢上下也增韻秬黑黍鬯香草以黑黍
米擣鬱金草取汁而煑之和釀其氣芬香調鬯故
謂之秬鬯又陸佃云秬者百穀之華鬯者百草之英故
王者以合鬯

鬱鬯　鬱鬯

今麥酒ヲ造ルニ蓽草ヲ交ヘ用ルニ似タリ

韻會小補 說文鬱芳草也云云遠方鬱人所貢芳草合釀之
以降神鬱鬯今鬱林郡也云云周禮註鬱為艸若蘭

倭

大廣益會玉篇倭烏禾切國名
倭字禾女人ニ從フ我邦ノ土禾稲ニ宜シ（後漢書云倭ノ地土宜ニ）
和胡戈切クワ古呉本邦
禾稲麻紵（桑蠶ニ）之ニ由テ禾國ト云ナリ女神天照大神ノ子孫
彼レ我ヲ指シテ
統御シ玉ヘル國ナルヲ以テ且ツ女子多キ國ト聞シテ（後漢書國多ニ女子）
說文宋嘉穀也集韻粟苗
委奴國王ノ下ニヨレハ倭 女人ヲ増畫シテ倭字ヲ製シレルナル（シ倭字山海經 蓋ノ作ル所堯ノ時ノ書ナリ
委同山字ナリ
倭ハ我邦ノ 論衡 漢王充ノ作ル所 等ニ見エタレハ甚タ古シ山海經南倭北倭ト記シ論衡ニ
惣名奴ハ筑前儺縣 倭人ト記ス然シテ後漢書ニ至テ始テ東夷倭奴國ノ字見エタリ倭人ヲ
ニシテ魏志ニ奴國トアル是ニ 改メテ倭奴トシ來メタルナリ然レ𪜈既ニ倭人ヲ國名トシ先習慣ヘ改ムル能ハス
倭國ノ奴國ト 同書ニ倭人國ト云九夷ノ中ニモ倭人ト記シテ國名トセリ（東夷九類玄菟
解シトスヘシ

樂浪 高驪 滿飾 鳧臾 索家 東屠 倭人 天鄙也

君

韻會小補 禮記祭法王宮祭日也註疏王君也日稱君日神尊故

其壇曰君宮

元史巻二百八 日本素號知禮之國

回々砲

元史十七年甲戌復授征日本軍官元佩虎符 〇回々砲 十八年云云文虎又請馬

二千給孔失忽思軍及回回砲云云

二十年云云發大都所造回々砲及其匠張林等付征東行省

按回々砲見鐵列傳第九十云亦思馬因回々氏西域旭

烈人也太平記曰元犯我其後且有鐵炮即是

禮義國

唐丞相曲江張先生文集巻之七 曲江張九齡 勅日本國王書

勅日本國王主明樂美御德彼禮義之國神靈所扶云云

〇

宋史巻四百九十一列傳二百五十 外國七 日本國

雍熙元年日本國僧奝然與其徒五六人浮海而至獻銅器十餘事并本國職員今王年代紀各一巻云云上聞其國王一姓傳継臣下皆世官歎息謂宰相曰此島夷耳乃

世祚遐久其臣継體不絶此蓋皇古之道也

元史一百六十七列傳第五十四

王國昌傳ニ東夷ハ皆内屬唯日本不受正朔帝知隋時曾與

中國通上云云

日本紀細注引用書目

一書 神代紀以下數所 或本 神武紀以下 一云 欽明紀以下 百濟記 神功紀以下

百濟新撰 雄略紀以下 一本 別本 の日本舊記 雄略紀 譜第 顯宗

帝王本紀 欽明紀 の百濟本紀 欽明紀 舊本 敏達 皇極 伊吉連博德書 齊明紀以下

難波吉士男人書 齊明 高麗沙門道顯日本世記 齊明

上古史之シカテ 三トス 一ハ刻本 權聞史 紀記

持統紀五年八月 詔十八氏上進其祖等墓記 集解墓記ハ墓誌ノ誤トス

一書一云ハ同一ノ語ニシテ此中ニ數多ノ書ヲ含

含畜セリ

或本 別本 舊本 一本ハ日本紀ノ異本ナルヘシ

百濟紀百濟本紀ハ同物ナルヤ又別ナルカ定メカタシ

日本舊記ハ弘仁私記ノ序ニ見エタリ 日本一書ト云書名 書名ナルヘシ

干支 數字紀年

干支ヲ以テ年代ヲ記セルハ漢字傳来ノ後 刻本備(依)ノ

字ヲ(漢字)以テ書改メシヨリ 古事記撰定ノ時ニ至レル迄此法

ヲ用ヰシニヤ 是ハ百濟百濟新撰等ニ由レルモノナルヘシ

百濟記壬午年 乙卯年 百濟新撰己巳年 辛丑年ナド見エ（百濟本記大歳辛亥三月ナドアリ 上書キ）
タリ 百濟本紀二十二月甲午（一云戊戌王薨 又正月丙午。）三月十二日辛酉 四月一日庚午
ナド見エタルハ一日朔ノ干支ヲ挙ゲザルモノト見エタリ 不便ナレド
古法ナルベシ 伊吉連博徳書ニハ己未年七月三日 又云九月十三日
又云十四日寅時 云云 十五日日入之時 又云十六日夜半之時（又云閏十月一日）
アリテ年ニ干支ヲ用ヰ月日ニ数字ヲ用ヰタリ 是モ古法カ
垂仁紀一云 己巳年冬十月甲子（孝徳紀或本云十一月甲午辛酉）斉明紀 或本云 庚申年七月ト
見エタレバ其ノ体ニ書ケルモアト見エ 継体紀或本云天皇二十八年歳
次甲寅崩 天智紀或本云六年歳次丁卯三月トアレバカヽルモアリ

百濟紀ヲ取レル

継体紀二十五年之ヲ 或本云天皇二十八年歳次甲寅崩 而
此云二十五年歳次辛亥崩者 取百濟本紀為文 其文
云大歳辛亥三月 師進至于安羅 営乞乇城 是月高
麗弑其王安 又聞日本天皇及太子皇子俱崩薨 由
此而言 辛亥之歳當二十五年 後勘校者知之也 ノ垂仁
紀一云取丁巳年冬十月甲子トアルモ百濟紀ヲ取リシナラン
ナルベシ 取ヲ以ノ誤トスルハ非ナリ

日本長寿ノ原因

我古代ノ人ノ長寿ナルハ太平ノ致ス所ニテ帝位ノ如キ
之ヲ究観フモ少ナシ卅年ノ山崩ナキ一ナリ
我邦外国ノ交際鮮シ故ニ疫病瘧癘黴毒ノ
如キモノナシ当時外国交際有テ[illegible]病始テアリ人命ヲ損
スル甚多シ然レ凡是レハ一時ノ病根ナレ凡黴毒ノ如キハ
子孫ニ傳ハ流レテ病居変化極リナリ後世醫學進歩
スト雖其病ノ狡黠ナルニ及ハズ是後世寿ノ短キ一ナ
理由ニシテ古代是等ノ病症ナシ故ニ古代長寿ナル
ヘキ二也

後世ニ至リテハ事務頻繁ナルハ勢然ラシムル所ナリ
事務頻繁ナルハ心意ヲ苦ムル従テ多キハ理ノ
当然ナリ是故後世寿短ニシテ上古長寿ナル
ベキ理ノ三也
試ニ漢史ニ就テ論セハ彼国ノ如キハ革命ノ国ニシテ
臣トシテ君ヲ弑スル者多キハ人ノ知ル所ナリ或ハ毒殺若
ニ由テ世ノ歴史上ニ載セサルモノ何人アルヤモ知ルヘカラス我
邦モ足利時代ヨリシテハ詐偽ノ交雑ス漢土ニ異ナラサル歴
史上ニ載セ見エスシテ卅年ノ死ヲ遂ケシ者何人ナルヤ

知ラズ決テ我古代帝王ノ寿中天命ヲ降ベルノ帝(?)
寿ヲ以テ外国ニ比スベカラザルナリ

日本紀年代

我邦始テ漢字ヲ百済ヨリ伝ヘ刻木結縄ニ習フルニ漢
字ヲ以テシ始テ史ヲ編纂スルニ及テ猶百済記百済新
撰等ノ体ニ準ヒ干支ヲ以テ之ガ年序ヲ記セルハ
当然ノ事ニテ寛永本其他古本ノ古事記中ニハ又
日本紀ノ細注ニ引用セル或本(即日本紀自異本)伊吉連博徳書
等皆干支ヲ以テ年代ヲ記シ未ダ数字ヲ以テ用ヰタル者(?)ナシ

(庚申年ヨリ戊申年数ノ名)日本紀ヲ編纂スルニ当リテ始テ数字ヲ
以テ年代ヲ記スニ至ル(?)ニ干支ヲ以テ年代ヲ記セルハ
六十一年毎ニ同干支有テ後ニ錯節間ト成ル事アリテ
不便ナリトノ古人ノ注意ニアリテカ今ノ日本紀ハ干支ヲ数字ヲ以テシ
年代ヲ記セリ(元年二年)イカニモ便利ナル古代ヨリ
習慣トナリタル干支ノ年ヲ遽ニ数字ノ年ニ比較シテ之ヲ
改メシ故カ却テ錯簡ノ甚シキトナリ年ヲ経テ紛乱最
甚シク(彼此年数合ハザルモノアリ)世々学者生ル、太子アリ二事ヲ合シテ一事ト
スルアリ甚シキニ至テハ文帝母后崩ジテ後降誕スル太子アルニ

然ルニ採者豈之ヲ知ラサラムヤ之ヲ知ルト雖尚還リ之ヲ改メ
ズ改メサルハ古人ノ尚大ニシテ亦事ニ亘ラサル所ナリ（今世ニ
存スル所ノ吉里羽本ノ如キハ大凡我意ヲ以テ之ヲ改作セリ故ニ過
斷シ我ハ却テ見ム人之ヲ案セヨ）漫ニ之ヲ改作スルハ不可
ナリ然レモ今世ハ事細ニ審ナラサレハヲ極今世ニシテ
知ラサルヲ知サルトセヨトカ蓋闕如ストカ云フカ（我情ヲ以テタヽサスシテ）知ルヘキナリ
故実ノ考ナレモヘキコトモアラス知ラルヘキ限リハ之ヲ極メムト
思フナリ史トハ史トシテ古史ノ年代ヲ訂正スヘキ法（大体）三アリ

一 大体古事記ノ年代ニヨルヘキナリ

古事記ノ遺漏
神功皇后ヲ開化帝ノ条ニ
開化帝ノ系図トシ
垂仁帝ノ条ニハ
日様ノ系図トス

古来古事記ニハ崇神帝以下数帝ノ崩年ヲ記載セリ此崩年ヲ推歩スレハ在位年数明暗カナリ其中ニ遺漏セシ処ハ日本紀ノ年代ヲ以テ之ヲ補ヘハ在位年数大体備ハルヲ得ヘシ

二 日本紀ノ数字ヲ干支年代ニ改メテ古事記ノ年代ニ比較対照挿入スヘキナリ（錯簡ヲ訂正セムトセハ紀年ノ）（シ又日本紀ノ干支日月ヲ改メテ数字日トスヘキナリ）（脱数）

古事記ニテ大体備リタリト雖モ古事記ハ甚ダ簡略ナル書ニテ一モ既ニ年数及月日ヲ載セサレハ最モ不完全ナルモノナリ之ニ日本紀ノ年数及月日ヲ加フレハ完全ナルヲ得ヘシ

然モ錯乱セシ外ハ数字日数ヲ適フヘシ

三 韓史ヲ以テ古史ヲ完全ナラシムル標準トナスヘキナリ

已ニ漢史ヲ以テ参考ニ備フヘシ

我古代ニ直接ノ関係アルハ韓ナリ韓史ノ外ニ古史ノ標準トナルベキモナシ
韓史ハ三国史記東国通鑑東国史略等アリ日本書紀ノ後
数百年ノ後ニ成リ其記ス所ハ数書ノ古史ニ由リ
殊ニ我ガ事ハ伝聞ニ就テ記シタルモノト見エテ冗言アリ
我事ノ如キハ甚シキ錯乱モ見エズ標準トナル
（凡ソ三国ノ）漢ノ支那史ニモ我古代ノ事跡ヲ載セタルモノハ
三韓ノ昔ヨリ伝聞シテ記セルモノト見エテ十中ノ
二三ノ外ハ訛伝ニ属スレバ参考ニ備フベシ

唯我属国タルヲ恥テ
テ載セズ却テ我ヲ軽メ
戦ヘハ必勝テルガ如ク
記セルハ常ニ自ラ尊シテ失ヘ
ルガ如シ中ニ就テ高麗
史ノ如キハ我邦ヲ知ラ
ル者ノ如シ一事ヲモ記載
セザルハ故意有テ
省ケルナルヘシ

神武帝

日本紀 天皇諱 立太子
神日本磐余彦
御父彦波瀲武鸕鷀草葺不合尊第四子
母玉依姫
年十五立太子
妃吾平津媛 生手研耳命（熱田本所耳命）
四十五歳 甲寅年 与諸兄議東征
戊午年四月 与長髄彦戦孔舎衛坂不勝 五月五瀬命薨于
紀国竈山 十二月 遂誅長髄彦
庚申年九月納媛蹈五十鈴媛命以為正妃

辛酉年春正月即位

皇后生神八井耳命神渟名川耳尊

四十二年春正月立神渟名川耳尊為皇太子

七十六年春三月崩

年一百二十七歳

神渟名川耳天皇 綏靖

神日本磐余彦天皇第三子也

母媛蹈韛五十鈴媛命

至四十八歳 神日本磐余彦天皇崩

父帝八十歳生也

母后立後三十年

三十三年壬子夏五月崩 時年八十四 一本三

桜八十四是

二年辛巳春正月 立五十鈴依媛為皇后

磯城津彦玉手看天皇 安寧

綏靖帝太子也

母五十鈴依媛

以綏靖帝二十五年立為皇太子年二十一 外記本其他古本 十一 古本

立太子 父帝八十四生也

母后立後四年生也

立太子ノ時十一年トスレハ十四年也 父帝九十四生也

三年立渟名底仲媛命為皇后

先是后生二皇子 一息石耳 二 懿徳帝

十一年春正月立大日本彦耜友尊為皇太子

三十八年冬十二月 天皇崩年五十七

立太子ノ寸二十一トスレハ六十七ナリ 但

一

大日本彦耜友天皇 懿徳

安寧帝第二子也 母渟名底仲媛

以安寧帝十一年春正月立為皇太子年十六

父帝年二十五生也

母后立前七年生也

二年春二月立天豊津媛為皇后 一后世襲（？）

二十二年春二月立孝昭為皇太子年十八

三十四年秋九月崩

孝昭紀ニ天豊津媛ヲ息石耳ノ女トス息石耳ハ安寧帝ノ第一子ニテ懿徳ノ兄ナリ兄ノ子ヲ后トス恐ハ衍一書ニ曰テ磯城縣主女泉媛或飯日媛トスベキカ

孝昭帝　観松彦香殖稲天皇　孝昭

孝昭帝ハ懿徳帝ノ太子也

母天豊津耳媛

以懿徳帝二十二年為皇太子年十八

父帝年四十八生也

母后立後四年

二十九年立世襲足媛為皇后 孝安紀尾張連遠祖瀛津世襲之妹也 此時帝年六十

皇后生天足彦國押人命日本足彦國押人尊　孝安

八十三年秋八月崩

日本足彦國押人天皇　孝安

孝安帝ハ孝昭帝第二也　母世襲足媛

以孝昭帝六十八年春正月立皇太子年二十

父帝年八十生　母后立後二十一年

二十六年春二月立姪押媛為皇后 一古姪忍鹿比売 此時帝年六十一

百〇二年ノ春正月崩

一云磯城縣主葉江女長媛一云十市縣主五十坂彦女五十坂媛也

大日本根子彦太瓊天皇　孝霊

孝霊帝ハ孝安帝ノ太子也母押媛

以孝安帝七十六年春正立為皇太子時年二十六

父帝年八十六生　母后立後二十六年

二年春二月立細媛為皇后 此時帝五十四

后生大日本根子彦國牽天皇 孝元

七十二年春二月崩 曰寿百二十八

大日本根子彦國牽天皇 孝元

孝元帝ハ孝霊帝太子也 母細媛

以孝霊帝三十六年春正月立為皇太子 時年十九

父帝年七十生 母后立後十七年

七年春二月立欝色謎命為皇后 〇帝年六十六

皇后生大彦命 稚日本根子彦大日日天皇（開化） 倭迹迹姫

五十七年秋九年崩 曰寿百十六

稚日本根子彦大日日天皇 開化

開化帝ハ孝元帝第二子也 母欝色謎命

以孝元帝二十二年春正月立為皇太子 年十六

父帝年六十六生 母后立年

六年春正月立伊香色謎命為皇后 〇此時帝年五十六

皇后生御間城入彦五十瓊殖天皇 崇神

六十年夏四月崩 時年百十五

按立太子年十六ヨリ算スレハ百十一ナリ

御間城入彦五十瓊殖天皇 崇神

崇神帝ハ開化帝第二子也 母伊香色謎命

天皇年十九（開化帝二十八年）立為皇太子

父帝年六十生 母立后後四年

元年二月立御間城姫為皇后（垂仁紀大彦命之女也）（大彦命ハ孝元帝子）帝年五十二

先是后生活目入彦五十狭茅天皇 垂仁

垂仁帝ハ崇神帝二十九年ノ生ナリ 先是ノ二字誤ナリ

六十八年冬十二月崩 時年百二十歳

按立太子年十九トアルヨリ算スレハ百十九ナリ

活目入彦五十狭茅天皇 垂仁

垂仁帝ハ崇神帝第三子也 母御間城姫

崇神帝二十九年春正月生於瑞籬宮 二十四歳立為皇太子

父帝七十六或八十生

崇神帝ノ二十九生トスレバ寿百三十九ナリ 崩年百四十トアルニ一年ノ差アリ

母崇神四十八年ノ夏四月立活目尊為皇太子

此時ヨリ算スレバ寿百四十三トナル

二年十立狭穂姫為皇后 后生誉津別命 十五年秋八月立日葉酢媛為皇后（丹波道主王之女）

九十九年秋七月崩 時年百四十

皇后生五十瓊敷入彦 大足彦（景行） 大中姫 倭姫 等

三十二年 皇后日葉酢媛命薨

大足彦忍代別天皇 景行

垂仁帝第三子也 母日葉酢媛

父帝ヲ崇神帝二十九年ノ生トスレバ父帝五十七ノ子也

孝霊紀 彦五十狭芹彦命 亦名吉備津彦命 又稚武彦命 是吉備臣之始祖也

妃生為天皇倒(?)

（景行）二年立播磨稲日大郎姫為皇后

七十一ノ说田 天皇三娶女吉備臣之祖若建吉備津日子之女若針間之伊那毗能大郎女

孝霊ト景行ノ曾祖(?) 三代餘年

垂仁帝二十七年春正月 立足彦為皇太子 時年二十一

二年春三月立播磨稲日大郎姫為皇后 ○此時帝八十五

后生大碓皇子小碓尊（日本武尊） 大碓小碓一日同胞而双生

四年八坂入媛為妃 生稚足彦天皇（成務） 五百城入彦皇子

四年春二月云云 是月大碓命美濃神骨之女ニ密通ヲ見ユ

是時因是月以下五十八字錯簡 疑在二十二年以降之紀 備考

黒羽本大碓命或作誉津別命 宜従之

集解説曰 垂仁帝五年ヨリ景行帝四年マデハ九十九年ナル（誉津別生年）

上古長寿ハ常ナルモ老ニ過キタリ 然レモ景行帝ハ父ナリ大碓命ハ子ナリ 父帝ガ子ヲシテ婦女ヲ見セシムルモ奇怪ナリ 或ハ誉津別ナリヤモ量リ難シ

六十年冬十一月崩 時年百六歳（古一本ナシ）

水鏡ニ百四十三トアルニ従フベシ

稚足彦天皇 成務

景行帝第四子也 母八坂入姫 八坂入彦皇子之女也

父帝年百五生也 或九十七生 母后立後二十二 或十三

景行帝四十六年立為皇太子 年二十四

六十年夏六月崩 時年一百七歳

立太子ノ時ヨリ算スレハ寿九十八也

此帝武内宿祢ト同日ニ生トアリ 年百七ヨリ推算スレハ景行帝
十四年ニ生ナリ 二十五年ニ武内宿祢ヲ東方ニ遣ストアレハ此時
宿祢年十二ニ当ル

音ノナキ怪ムヘシ

足仲彦天皇 仲哀

日本武尊第二子也 母両道入姫 垂仁

母皇后両道入姫命 活目入彦五狭茅天皇之女也

両道入姫命 活目入彦五狭茅天皇之孫 某之子某之女也トアリ シカ脱落セシナルヘシ

成務帝四十八年立為太子 時年三十一

此立太子ノ年ヨリ算スレハ五十二ナリ 古事記伍拾弐歳トアリ
一年差アリ 元年詔曰朕未逮弱冠而父王既崩之トアル
ヨリ算スレハ九十八九十九ナルヘシ 九十二ノ誤トスルモ未タシ

二年立気長足姫尊為皇后

先是娶叔父彦人大兄之女大中姫為妃 生麛坂皇子 忍熊皇子

九年春二月崩 時年五十二

一云天皇親伐熊襲 中賊矢而崩也

神功皇后

開化帝曾孫 気長宿祢王之女也 母葛城高額媛

仲哀帝二年立為皇后

九年春二月仲哀帝崩

六十九年皇后崩 時年一百歳

応神

誉田天皇 応神

仲哀帝第四子也
庚辰冬十二月生　皇太后攝政三年立爲皇太子時
年卅三
二年三月立仲姫爲皇后々生荒田皇女大鷦鷯
天皇根鳥皇子
先是天皇以皇后姉高城入姫爲妃生額田大中
彦皇子大山守皇子去来真稚皇子云云
次妃和珥臣祖日觸使主之女宮主宅媛生菟道稚
郎子皇子矢田皇女雌鳥皇女云云
次妃櫻井田連男鉏之妹糸媛生隼総別皇子
四十一年春二月崩年一百十歳

古事記紀年

古事記崇神帝ヨリ推古帝ニ至ル迄崩年ヲ記セルモ未タ日本紀ト合ハズ
袖ヲ得ズノ大八其歴年明瞭ナルヲ知ルベシ唯清寧顕宗
ノ二世紀記共ニ徴スベキモノナシ然レドモ雄略帝ハ己巳年崩
継体帝丁未年ノ崩ナレバ此間百五十九年ノ差アルハ判然タリ

継体帝丁亥立丁未崩　武烈帝己卯立丙戌崩
仁賢帝戊辰立戊寅崩
此間四十年　何レモ世数長伸スルヲ得ズ
此四十年ヲ引去レバ残数百十九年

仁賢武烈継体三帝ノ世数四十年　清寧顕宗ノ二帝ノ世数百十九年
ヲ得　十継　清寧帝ノ崩年顕宗帝元年及年数他ニ徴ス

日本紀五年(甲子)清寧帝崩　元年(乙丑)顕宗帝立トアル数
字紀年ヲ据テ明干支紀年ニ改メテ之ヨリ百十九年ノ渐半数ヲ清寧
帝在位五十五年甲子ノ崩　顕宗帝乙丑元年在位六十三年ヲ
得ルナリ
故ニ紀記撰定ノ前ニ当テ清寧帝五十五年ノ五十ヲ脱却シテ五年トシ
顕宗帝ノ六十三年ノ六十ヲ脱却シテ三年ト傳ヘ此二帝ニ於テ百十
年ヲ短縮セシメタル故ニ歴史上大ナル不合ヲ生シ酉爾未肖古貴須ヲ
近肖古近貴須ト混同シ神功摂政顕宗二帝百十九年間ノ事
跡ヲ神功紀其他ノ事跡ニ混淆シ終ニ後世ヲシテ疑團解クル丁
ナキニ至ラシメタリ
然レモ古事記年ニ歴年ノ大体ヲ見ルベク日本紀其中ノ不部
分ヲ補フニ足リ韓史ノ標準トナルモノ有テ此歴史上此大混
乱ヲ訂正スルヲ得ルナリ

神功應神其他韓史ニ標準ヲ取ルベキモノハ日本紀ノ数字紀年ヲ干支
紀年ニ改メテ之ヲ韓史ト對照スル時ハ疑團氷解セサルナシ清
寧顕宗二帝ノ紀年ニ挿入スルモノハ自ラ二世ノ正史ヲ得ベシ

女国王女　多波那国　脱解　瓠公

三国史記新羅本紀始祖王四年脱解尼師今立一云吐解時年六十二
姓昔妃阿孝夫人脱解本多波那国所生也其国在倭国東北一
千里初其国王娶女国王女為妻有娠七年乃生大卵
桜多波那国ハ但馬国ナリ倭国東北一千里ハ倭国西北一百里ニ作ルベシ

其国王ハ垂仁帝ノ世ニ帰化スル所ノ天日槍ノ裔ナルベシ
天日槍ハ播磨風土記ヲ按スルニ大国主ノ世ニ帰化セシ人ナリ故ニ垂
仁紀新羅王子天日槍来帰トアルハ天日槍ノ裔新羅王子来帰
ノ錯誤ナルヲ知ルベシ伊都縣主等日槍ノ裔ナリ垂仁紀ニ帰化セシ
新羅王子モ天日槍ノ裔ノ新羅ニ存在セルモノナルベシ時代ヲ

七年乃生大卵トアルハ
脱解七歳ニシテ新
羅ヘ渡航セシ事
実ヲ記シタルモノナルベシ
然ラハ脱解寿八十八歳
ナリ

一 彦フルニ或ハ赫居世ノ兒カ
垂仁紀ニ新羅王子名曰天日槍……留于但馬娶其國前津耳女麻
拕能烏生但馬諸助（多遲摩之脛尾之女名前津見）生子多遲
摩母呂須玖
女國王ノ女ト云ヘルハ麻拕能烏ノコナルベシ此麻拕能烏ノ父ハ其國前津
耳トノミアリテ如何ナル由来アル人カ判然セザレド恐クハ丹波道主王ノ
ノ爲ナルベシ（丹波道主ハ開化帝ノ孫彦坐王ノ子ナリ（開化紀
垂仁紀参看スベシ）若シ然ラバ女國王之女ト云ヘルモ理アルナリ

王曰人而生卵不祥也宜棄之其女不忍以帛裹卵并寳物置於
櫝中浮於海任其所往初至金官國海邊金官人怪之不取又至辰
韓阿珍浦口是始祖赫居世在位三十九年也
是等麻拕能烏ノ子幼ニシテ船ニ乘シ新羅ニ至ルヲ云ナリ金官
國ハ加羅國辰韓ハ新羅ナリ實事ヲ以テ奇怪談ニ附ルハ
上古ノ常ナリ

時海邊老母以繩引繫海岸開櫝見之有一小兒在焉其母取養之
及壯身長九尺風神秀朗智識過人或曰此兒不知姓氏初櫝來時
有一鵲飛鳴而隨之宜省鵲字以昔爲氏又解韞櫝而出宜名脫解
脫解始以漁釣爲業供養其母未嘗有懈色母謂曰汝非常人
骨相殊異宜從學以立功名於是專精學問兼知地理望楊山下
瓠公宅以爲吉地設詭計以取而居之其地後爲月城至南解王五年
聞其賢以其女妻之至七年登庸爲大輔委以政事儒理將死曰
先王顧命曰吾死後無論子婿以年長且賢者繼位是以寡人先立
今也宜傳其位焉

脫解ハ丹道宗ノ
弟比多珂ナル
ヲ知ル

昔氏脫解ノ名義ノ如キ漢字ノ義ヲ以テ解スルハ其意ヲ得ズ皆新羅
ノ邦語ヲ以テ名クルナルベシ若シ字ノ義ヲ以テ解カバ脫解ノ名吐解ノ如キ解ク
ベカラズ又南解ノ如キモ皆新羅ノ古語ナリ是等ニ存シ難シ字ノ義ヲ以テ
スルハ後世ノ附會ナルベシ
瓠公ハ倭人赫居世三十八年渡海其脫解ハ三十九年ノ渡海ナレハ一年ノ

姓氏録橘守

脱解ハ年後レタリ脱解瓠公ノ宅ヲ奪ヘル東国史記ニ志ス大瓠公モ
甘レテ之ヲ与ヘタルハ必定面外ニ見エザル原因(理由)アラム
赫居世三十九年ハ垂仁帝八十四年ニ当ル田道間守ノ渡韓ハ垂仁帝九十年
ニシテ七年ノ差アレバ恐クハ同時ニシテ脱解ハ田道間守ト共ニ渡韓
セシナラム

開化帝

開化帝―(丹波道主)日子坐王―大俣王―前津見
紀綏坐
小俣王
天日槍之裔 新羅王子 麻拕能烏―麻拕能烏
前津耳
天日槍―新羅王子―天日槍
母呂須玖―諸助
斐之泥
比那良岐
日楢杵
毛理
比多訶
清日子
脱解ハ比多訶ナル乎

俣尾ハ大俣王ナル乎(ヘシ)前津見
古事記ニ但馬俣尾之女
前津見トアリ俣尾ハ大俣王ナルヘシ

古事記垂仁帝ニ非時香菓ヲ求メシ
比多訶ノ孫ニ入レタルハ誤レリ
開化帝ノ弟ニ開化帝
ノ裔ニ入ル

按ニ田道守ヲ常世国ニ遣ハサレシハ唯香菓ヲ求ムル為ナミニアラズ先キニ
瓠公脱解ハ新羅ニ渡リ瓠公ハ新羅ノ政ヲ輔ケ脱解ハ幼ナリト
雖此事ヲ成スノ基トナラムトス雖高麗北ニ起リ百済南ニ立チ此時ニ
於テ事忽ニスル能ハサルノ時ナリ毛利ヲ遣ハス莫ニ理由アルナリ

東国通鑑
新羅始祖三十八年 垂仁帝八十三年 漢成帝鴻嘉元年 春二月新羅遣瓠公聘於馬韓
馬韓王讓曰辰卞二韓為我属国比年不輸職貢事大之禮其若是
乎対曰我国自二聖肇興人事修天時和倉庾充実人民敬讓自辰
韓楽浪倭人無不畏懐而吾王謙虚遣下臣修聘可謂過於禮
而大王反怒刧之以兵何耶馬韓王愈怒欲殺之左右諫止乃聴還
先是中国之人苦秦乱東来馬韓者頗多与辰韓雑居至是
寖盛故馬韓忌之瓠公本倭人初以瓠繋腰渡海而来故号焉

瓠公按ニ瓠ハ瓠音子(コ)ナリ脱解ヲ新羅ニ伴アヒシハ瓠公ナルベシ字義ヲ(因テ名トセシナラム)
取ルハ非ナリ脱解ヲ始祖赫居世ノ三十九年トスノ年ノ差アレバ如此遣ハ
古代ノ史ニ恭ニ在ルナリ

大和

紀崇神天皇六年 和大國魂トアレバ類聚國史政事要略ニ引ケルニナ倭ヲ
用ヰ熱田本倭ナルヨシ
思合ニ官田大和梅津各三十町

爾雅 日下 那馬ガ疏ニ日下謂日所出處其下之國也
延苑日佛熙梅下與本國讀相通日下即日本也乃知周時號為日下

公式令 明神御宇日本天皇詔旨（アキツミカミトアメノシタシロシメスヒノモトノスメラミコトノオホミコトラ）
義解 以大事宣於蕃國使之辭也

孝徳紀大化元年ノ詔書式ニ明神御宇日本天皇
万葉集不盡長歌 續日紀 奥播寺僧ノ長歌ニモ日本（ヒノモト）ノヤマトノ國
新唐書日本傳 後稍習夏音悪倭名更號日本使者自言國近日所
出以為名
舊唐書 日本國者倭之別種也其人入朝者多自矜大不以實對

神功皇后征韓及

卑彌乎ノ論

三國史記 卑彌呼 魏志 女王國

卑彌乎ハ姫子ニシテ神功皇后ヲ指セルナリ古事記ノ紀年ニ三國
史記ヲ比較スレバ皇后ノ征韓ノ役ハ祇摩尼師今ノ十一年ニシテ其五
大風東来折木飛瓦至夕而止都人訛言倭兵大来争遁山谷王
命伊飡翊宗等諭止之ヲトアルニ当レリ訛言トアルハ誤ナリ此時
皇后ノ新羅ヲ征シ玉ヒシハ天助ヲ得テ戦ハズシテ新羅王伏罪
セシナレハ紀記ニ詳ナリ又十二年春二月與倭國講和トアルハ新羅
朝貢セシコトヲ云ヘルナリ阿達羅尼師今ノ立五年春三月倭人来聘
二十年夏五月倭女王卑弥乎遣使来聘トアルハ皇后ノ威武
ヲ云ヘルニテ卑弥乎ハ皇后ナルコト疑ナシ
漢土ニテ我風俗及卑弥呼ヲ記セルハ魏志ヲ以テ始トス魏志ハ晉ノ
平陽侯相陳壽ノ撰述スル所後漢書ハ宋宣城太守范曄ノ撰其
以下書ハ魏志後漢書ヲ聊取捨増減セシニ過キズ然シテ魏志ニ

神功皇后ノ征韓ノ事
維新ノ既ニ我古史中
著名ナル事件
ニシテ注テ盧
書ト同セズンバ
ラザル所論ナリ
然ニ韓史ニ此
事件ヲ載セズ
トテ人ノ疑ヲ起
ス
ニツ理ナレ共
古来我年紀ニ
誤謬アルニ心
付カザルナリキ
今古年ノ年紀
ヲ訂正シテ三ツ
韓史ニ比較スレバ
一年ノ差異ハ巳
ナリ符合スルナリ 図

正始ノ時トシ晉書ニハ前漢ノ宣帝ノ時ヨリ初始ノ初遣使来貢トシ北史隋
ニハ後漢霊帝光和中トシ後漢書隋書ニハ桓霊之間トス按スルニ如此時代ノ區々タル
元ヨリ確實ナル記録ニ由テ記セル所ハ論ナシ其中ニ桓霊之間トスルモノ近シ
然レドモ卑弥呼ハ神功皇后ナラセルハ著明ナリトス

又征服ヨリ以来卑弥呼ノ名漢土ニモ聞ヘ高キレヨリ蜀ノ縣主等カ弥呼ノ名ヲ僭リテ漢卑弥呼ノ使ト称テ漢ニ通シ利ヲ貪リシ事モ有リシナルベシ トニカク卑弥呼ノ名高カリシ一証トスベシ 歟

三国史記ニ曰 倭云云

後漢書ニ曰 自武帝滅朝鮮使驛（驛當作譯）通於漢者三十許國國皆稱王世々傳統其大倭王居邪馬臺國

ナ

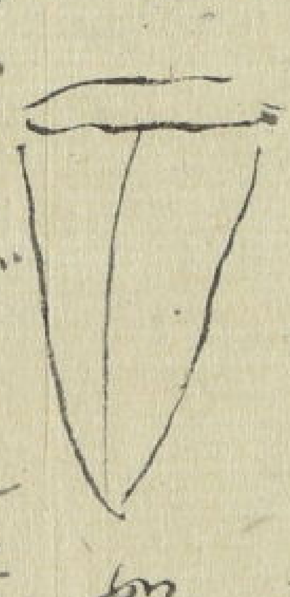
桓霊間倭國大亂更相攻伐歴年無主有一女子名曰卑弥呼年長不嫁事鬼神道能以妖惑衆於共立為王侍婢千人少有見者唯有男子一人給飲食傳辭語云云

倭國大乱トハ熊襲ノ叛キシヲ云フナリ○歴年無主トハ誤謬ナリ○卑弥呼長不嫁トハ仲哀帝崩後六十九年間女主（帝ニテ有リシ）ヲ訛傳セシナリ○事鬼神道能以妖惑衆トハ神託等ノ事ヲ指セシナリ ○有男子一人云云ハ武内宿祢ノコトヲ訛傳セシカ

古事記ニ
神功皇后ノ御母高額姫ヲ
開化天皇段ニハ 開化帝ノ御子彦坐王ノ系ニ入レ
應神天皇段ニハ 天日矛ノ系ニ入レタリ

ゐる事上げ申 佐藤様
[illegible]
[illegible]
[illegible]の化石[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]のあへつち
[illegible]
[illegible]
[illegible]

古俗蛇ノ爪ト唱フルモノハ



如此

大ニシテ平ラメク又ノ如クウスクトガリタルモノナリ
今ノ堀得タルモノハ其ト大ニ異ナリ歯ノ如ク見エテ
肉付キト思フ所ハ化石シテ歯ト思ハルヽ所ハ
堅クシテサナガラ人ノ歯ニカネツケタル如シ
或獣類ノアギトナランカトモ鯨ナドノ爪又ハ歯ナランカ
トモ云ヘトモ今ノ世ニ如キ形ノモノヲ見ザレハ何
レトモ定メ難クナン宜シク宇斯ノ考ヘヲモ
添ヘ給ヘテヨ 究実、

此外ニモ欠ケ損ジタル石アレドモイカナル形
ナリケン知ルベカラズ是ヲ其侭ニ堀得ル
ナラバ全体ヲモ見ツベカリシヲ最モクチオ
シキコトニナリナリ

明治二十年
三月[illegible]

[illegible]
[illegible]

落合直澄宇斯
[illegible]